

## 第1節 共通型調査結果

学生アンケート（共通型）は、各質問項目別に度数分布図表（巻末に資料-1として添付）を作成している。しかし、図表の数量的な資料だけでは、十分に理解することができないところもあるので、各質問項目別にできるだけ資料に忠実にコメントを付けることにしている。学生の意見は、資料として巻末に付けるべきところであるが、コメントや図表の理解を深めるためにも本文中に記載したほうがよいと判断したところである。

ここでは、各質問項目別にコメントを付けることにしているが、その場合、資料を要約する必要がある。例えば、図表2-2-1「シラバスの授業選択における有用性」では、「非常に役立った」（14%）、「かなり役立った」（44%）、「どちらともいえない」（31%）、「あまり役立たなかった」（9%）、「まったく役立たなかった」（2%）となった。この場合、3区分では「役立った」（14+44=58%）、「どちらともいえない」（31%）、「役立たなかった」（9+2=11%）としている。また、「役立った」が昼間コース（58%）、夜間主コース（53%）のときには、「役立った」（58%、53%）と表示している。このような表示の仕方を理解していれば、数値の背後に隠れている学生のドラマを楽しむことができるのではないかと考えている。

### 1 学生アンケート調査の回収状況と学年別（入学年度別）構成

図表2-1は、学生アンケート調査の回収状況と学年別構成を示したものである。この図表によれば、回収率は昼間コースでは52%、夜間主コースでは35%である。つまり、昼間コースは普通であるが、夜間主コースは非常に悪くなっている。また、回収率を学年別に昼間コースと夜間主コースで比較すると、1年（昼間72%、夜間主69%）、2年（75%、44%）、3年（36%、30%）、4年（38%、8%）である。つまり、昼間コースでは、1-2年の回収率は70%台と非常に良いのであるが、3-4年で30%台と非常に悪くなっている。夜間主コースもほぼ同じ傾向にあるが、学年が進むにつれて非常に悪くなっている。

他方、アンケート調査の回収状況を学年別構成で昼間コースと夜間主コースを比較すると、1年（昼間32%、夜間主47%）、2年（34%、30%）、3年（16%、18%）、4年（17%、5%）である。つまり、昼間コースでは1-2年は30%台、3-4年は10%台であるのに対して、夜間主コースでは1年は47%、2年は30%である。ちなみに、前年の学年別構成をみると、昼間コースでは1年は20%、2-3年は30%位であるのに対して、夜間主コースでは1年は48%、2年は22%である。

以上のようなアンケート調査の学年別構成は、アンケート調査結果に大きな影響を及していることに注意していただきたい。

## 2 授業全体に関する内容

### 2-1 シラバスの有用性

図表2-2-1は、シラバスの授業選択における有用性を示したものである。この図表で、「役立った」「役立たなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（役立った58%、役立たなかった10%）、夜間主コース（53%、15%）である。つまり、「役立った」（昼間58%、夜間主53%）は両コースとも50%台であるが、昼間コースのほうが少し高くなっている。それに対して、「役立たなかった」（10%、15%）は夜間主コースのほうが少し高くなっている。

昼間コースを先ほどと同じように、「役立った」「役立たなかった」の2区分にわけて学年別に比較すると、1年（役立った57%、役立たなかった10%）、2年（67%、8%）、3年（58%、10%）、4年（46%、14%）である。つまり、「役立った」の割合が大きい順に並べてみると、2年（67%）、3年（58%）、1年（57%）、4年（46%）である。ちなみに、前年の順位は、1年（75%）、3年（72%）、2年（71%）、4年（42%）であることからみれば、本年の評価は非常に下がっている。また、「役立たなかった」の割合が大きい順に並べてみると、4年（14%）、1年（10%）、3年（10%）、2年（8%）である。他方、夜間主コースで「役立った」の割合が大きい順に並べてみると、2年（58%）、4年（56%）、3年（53%）、1年（50%）である。また、「役立たなかった」の割合が大きい順に並べてみると、1年（21%）、4年（11%）、3年（10%）、4年（8%）である。

以上の結果は、前年よりも非常に悪くなっているので、教師はシラバスの有用性を高める工夫をすべきであろう。

### 2-2 授業時間割の編成

図表2-2-2は、授業時間割編成の適切さを示したものである。この図表で、「適切であった」「不適切であった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（適切26%、不適切32%）、夜間主コース（23%、42%）である。つまり、「適切であった」（昼間26%、夜間主23%）は両コースとも20%台にとどまっている。それに対して、「どちらともいえない」（42%、35%）、「不適切であった」（32%、42%）は非常に高くなっている。

昼間コースで「適切であった」「不適切であった」の2区分にわけて学年別に比較すると、1年（適切25%、不適切32%）、2年（26%、38%）、3年（33%、30%）、4年（25%、23%）である。つまり、1-2年では「不適切であった」が「適切であった」よりも大きく30%台である。また、「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年（33%）、2年（26%）、1年（25%）、4年（25%）と学年が進むにつれて高くなっている。さらに、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、2年（38%）、1年（32%）、3年（30%）、4年（23%）である。つまり、「不適切であった」は、1-3年で30%位にも達しているのである。他方、夜間主コースで「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、1年（29%）、3年（27%）、2年（15%）、4年（11%）でこれまた非常に低くなっている。さらに、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、2年（69%）、3年（40%）、4年（33%）、

1年(27%)である。これらの結果をみると、不適切の割合が非常に高く69%にも達している学年があるのは驚くべきことである。

### 2-3 授業時間割で改善してほしい点(自由記載)

先ほどの分析結果で明らかのように、昼間コース、夜間主コースとも授業時間割の編成で「不適切であった」(昼間32%、夜間主42%)が非常に高くなっている。そこで次に、学生に授業時間割で不適切な理由をたずねた。そのなかには改善すべき点もあるように思われる。

授業時間割で改善を望む点を示すと、次のようになる。(357件)

(昼間コース)(295件)

- 1 教師だけでなく、授業をとる側のことを考えて時間割を組んでほしい。
- 2 非開講が多い。
- 3 一般教育科目の非開講をできるだけなくしてほしい。
- \*4 好きな先生を選ばせてほしい。
- 5 抽選で受けられない授業がダメ。
- 6 学校祭のときは講義をなくしてほしい。
- 7 テストの時間割をもっとよくして、尚且つ短くして欲しい。
- 8 語学のテスト期間を他の科目のテスト時間とずらしてほしい。
- 9 専門科目を早い時間にしてほしい。
- 10 専門学科の必修など、曜日によって集中していたり、何も無い日などある。
- 11 昨年の時間割編成はかなり適切であった、今年は一般教養をとるのがむずかしくなっていると思う。
- \*12 後期の時間割は後期に決めたい。
- 13 半期毎の履修届を可能にした方が、学生側の目的意識の変化を的確に把握できると思う。
- 14 半期科目を増やしてほしい。
- 15 2講続きの授業の枠は前後期2講続きにしてほしい。
- 16 授業が前期・後期で違う場合、通年は辞めてください。(金曜4講目、経済史)。
- 17 半期制の専門科目で片方1講目、もう片方5講目も止めて欲しい。2時間連続は止めてください。
- 18 2時間続きの授業や前期後期の半期制などのためとりたくてもとれない授業があった。
- 19 特に後期でまったく講義がない時間があったり、重っていたりしてバランスが悪い。
- 20 1講目と5講目など週2回ある授業で極端にばらつきのあるものがあった。
- 21 配当年度の専門科目は必ず取れるようにしてほしい。
- 22 同年次配当の科目が重なるのはやめてほしい。

- 23 同一学科の同一配当年次の専門科目を同一学期の同一時間に配置するのはやめて下さい。
- 24 1年次に1講目を多くして2、3年次に1講目と5講目に専門を置くのは止めて欲しい。
- 25 月2、水3、金3（後期）に履修できる授業がなくて残念だった。
- 26 水曜日とか火・木のゼミが入っている時間とかの授業を設けてほしい。
- 27 今回は水曜日に教養科目が少なかった。
- 28 各科の専門科目は頭を使うので2、3、4講目にして欲しい（教養は1、5講目でよい）。
- 29 専門と語学の時間が重なっているのでは何とかしてほしいです。
- 30 ゼミの時間帯にも専門科目を入れてください。
- \*31 学科によって時間割に公平、不公平ができる。しかもこの差が大きい。
- 32 所属学科によって時間割の作り方がある程度予想できると思うのでその辺を考慮してほしい。
- 33 英会話や第2外国語の会話を午前中か3講義目くらいに入れてほしい。
- 34 語学をもっと午前中にまとめてほしい。1・4・1・5の日はつらい。
- 35 もっと一般教養を取りやすいようにくんでほしい。
- 36 同一科目を違う時間帯で開いてほしかった（共通科目など）。
- 37 一般教であれば昼間も夜間主の授業を受け入れるようにしてほしい。
- 38 語学・一般教養・専門の年次がなるべく重ならないようにしてほしい。
- \*39 同じ学科の科目が同じに入っているのはやめてもらいたい。
- 40 経済の専門が重なって取れないものが多かった。
- 41 経済学科でももっと企業法とか違う科のものを取ってみたい。企、商のは今は時間割上の一つもとれていない。
- 42 経済学科では他学科にくらべ1年次にとることのできる一般教養科目がすくなくすぎたように思うのでその点を改善してほしい。
- 43（経済学科でも簿記をとれるように）1週目に2度1科目を開講してほしい。
- 44 商学科の科目が1講目に多すぎる。
- 45 商学科に重きをおき過ぎで他学科は不満を感じている。
- 46 法専門と商専門が同じコマに入らないことを求めます。
- 47 企業法が圧倒的に不利、（1講目を5講目にetc）。
- 48 企業法の時間割を改善してください。
- 49 企業法学科が時間割的に自学科科目を取りにくい点。
- 50 今年度の民法Iと刑法が重複した等の、重要な専門科目同士の重複はなるべく改善してもらいたい。
- \*51 履修科目が集中して教室が混雑するのではなく、分散できるほうがいい。
- 52 共通科目によっては、履修者が600、700人になるのは教室の広さから言って好ましくないと

思う。散らばるような時間割をくむべき。(講師の関係もあると思うが)。

- 53 昼休みが短い。語学が早い。I 講義目も始まる時間が早い。
- 54 冬季集中授業を設ける。夏季集中講座のコマ数を増やす。
- 55 時間割の発表は成績表とともに3月中に(どんなに遅くても4月の頭)してほしい。

(夜間主コース) (62件)

- 1 学生の立場に立った時間割をつくってほしい。学生に聞きながら作る。
- 2 シラバス、時間割を、春休みの早い段階で配付してほしい。できないはずはないと思う。講義開始の当日に配付するなどおかしい。他大学では、春休み中に配布している。それと、セメスター制を導入してほしい。
- 3 前期と後期で履修届の提出を分けてほしい。
- 4 学科に合わせた授業編成にしてほしい。自分の学科を取ると空き時間ができてしまう。
- 5 学年ごとまとまりを作してほしい。自分は、あき時間がありすぎた。
- 6 各曜日に全ての学科の授業科目を入れて欲しい。
- 7 社会情報の授業がかたよっていて時間割に空きがでてしまった。
- \*8 土曜日の授業がうすい。
- 9 土曜日は朝からやってほしい。
- 10 土曜日の授業を止めてほしい。5講目から夜間にしてほしい。
- \*11 授業の選択の幅がせまい。
- 12 専門科目が少ない。
- 13 履修できる科目が存在しないような時間をなくしてほしい。
- 14 夜間に開講されている講義科目を昼でもとれるようにしてほしい。
- 15 夜の授業と昼の授業がかさなくても昼の授業をとりたい。
- 16 夜間主コースの生徒も昼の授業を取れるようにしてほしい。
- 17 昼と夜が重なる授業は取れないというのは止めて欲しい。他の授業で取りたいのに取れない。
- \*18 週二回あるものは2講連続にしてほしかった。
- 19 2時間続きの授業はやめてほしい。
- 20 同じ授業が同じ日に2コマ続けて行われる点は改善してほしい。
- 21 同じ科目を2コマ連続(3時間)というのは疲れる。
- 22 半期集中型の場合、同じ日2コマでなく、2日に分けて欲しい。
- 23 半期集中講義を減らして欲しい。
- 24 2コマ続き等の半期4単位の授業は取りにくい。
- \*25 夜間主の学生は、昼間の4. 5講目を受講したいのに数が少なかった。

- 26 5講目とか、夜の授業とつながっている時間に共通科目を多くしてほしい。
- 27 昼間の4・5講目の授業をもっと増やしてほしい。
- 28 夜間主の人でも4, 5講目の授業をとりやすいような時間割にして欲しい。
- 29 昼の4講目、6講目の時間に夜間主生がとれる授業をいれてほしいです。
- 30 5講目と6講目の間が5分しかないのは短すぎると思う。
- 31 水曜日は体育くらいしか受けれる科目がない。教養を入れてほしい。
- 32 夜間主は、夏休みを少なくしても良い。
- 33 経済学科は半期制の科目が多かったためじっくり学習できなかった。

#### 2-4 カリキュラムの適切さ

図表2-2-4は、カリキュラム（卒業所要単位、開講科目、語学科目と専門科目のバランス）の適切さを示したものである。この図表で、「適切である」「不適切である」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（適切30%、不適切27%）、夜間主コース（23%、35%）である。つまり、両コースとも「適切である」（昼間30%、夜間主23%）はどちらも非常に低くなっているのに対して、「どちらともいえない」（43%、43%）は、非常に高くなっている。昼間コースで「適切である」「不適切である」の2区分にわけて学年別に比較すると、1年（適切30%、不適切26%）、2年（28%、30%）、3年（27%、30%）、4年（34%、22%）である。つまり、昼間コースでは「適切である」は学年が進むにつれて少しずつ低くなっている。また、2-3年では「適切である」よりも「不適切である」が多くなっている。他方、夜間主コースについても同じ方法で学年別に比較すると、「適切である」は2年で17%、1・3年で20%台であるのに対して、「不適切である」は、2年（44%）、1・3年で30%台と非常に高くなっている。

#### 2-5 カリキュラム（卒業所要単位、開講科目、語学科目と専門科目のバランス）で改善してほしい点（自由記載）

先ほどの分析結果で明らかのように、昼間コース、夜間主コースともカリキュラムで「不適切である」（昼間27%、夜間主35%）は非常に高く、また、学年別にみてもしかりである。そこで、学生にカリキュラムで不適切な理由をたずねた。そのなかには改善すべき点もあるように思われる。

カリキュラムで改善を望む点を示すと、次のようになる。（248件）

（昼間コース）（211件）

- 1 3年もしくは3年半で卒業可能な制度を作ってほしい。
- 2 必要単位数をもっと増やして、勉強してない学生をなくそう。
- 3 必修科目を増やすべき（経済学科は）。
- 4 優良可で単位の区別をつけてほしい（cf、優3・良2・可1）。

- 5 投資信託に関する授業を希望する。
- 6 後期の授業がガイダンスなしに履修登録しなければならないこと。
- \*7 もっとわかりやすい専門科目を開講してほしい。
- 8 開講科目が少なく選択の幅が小さいので全科目開講すべきだ。
- 9 開講科目が少ない。教官の留学の時期を考えてほしい。
- 10 開講科目が少ない、特に企業法。
- 11 出来るだけ、隔年開講の科目を造らないでほしい（特に教職関係）。
- 12 学科ごとのバランスをもっと考慮すべき。
- 13 学科によって各学年においてとらなければならない単位が違うのはおかしい。
- 14 学科によって専門科目がある学年に集中したりしているのを改善してほしい。
- \*15 語学のテストは試験期間中ではなく授業中にテストを実施してほしい。
- 16 英語を受験につかわなかったため語学がつかずすぎる。総合問題で入学しました。そのゆえに人のために語学を他の専門科目で。
- 17 特に語学だが、先生に応じて授業内容が違いすぎる。同じ名の講義でも内容も変わるの  
は適切と言えるだろうか。
- 18 語学が多すぎるわりに統一性が全くないので有効ではない（へらして）。
- 19 英語を学年で区切るのではなく会話で単位、読解8単位にして下さい。
- 20 一般教養科目と専門科目ができるだけ重ならないようにしてほしい。
- 21 一般教養科目にもう少しユニークな授業を加えてほしい。
- 22 一般教養をもっと多く取れるようにしてほしい。
- 23 一般教養科目の必要単位数を減少してほしい。他の学科もとりたい。
- \*24 企業法の専門を経済や商学と同じ位にして欲しい。
- 25 法律科目を増やしてほしい。又は他学科の専門科目の卒業所要単位における割合を増加して  
ほしい。
- 26 企業法専門科目はもっと1、2年でとれるようにしてほしい。
- 27 企業法は他学科に比べ単位も多く、単位も取りにくく、不利である。
- 28 企業法の専門科目が3年次にばかりかたよっているのもっとばらしてほしい。
- 29 2年の段階でとれる企業法の専門科目がもう少しあってほしい。
- 30 社情の他学科専門単位数をもっと増やしてください。
- 31 1年の社情報科目は筆記系ばかりでつまらない。コンピューターの実技系を期待してい  
たが。
- 32 社情や企業法の他学科専門科目の単位を増やしてほしい。
- 33 社会情報という学科なのに、語学が多いように感じます。もう少し専門的で、社会で役立つ  
科目がほしいです。

- \*34 夏休みに入るのが遅い。冬休みが短い。
- 35 雪国の学校なのに冬休みが極めて短すぎる。夏よりも冬の休みを長くしてほしい。
- 36 冬はJRが遅れやすいので授業が始まる時間を通常より遅くして欲しい。

(夜間主コース) (37件)

- 1 授業内容が全然役に立たない。教科書を一回も使わないのに買う必要がなかった。
- 2 夜間主の人が昼間コースに編入できるようにしてほしい。
- 3 科目名に似つかわしくない内容の科目があるので改善が必要。
- 4 学習態度や出席（とくに）を評価の中でもっと価値をつけてほしい。
- \*5 夜間主の開講科目を増やしてほしい。
- 6 専門科目をもっと開講して欲しい。
- 7 夜間主の生徒の授業選択の選択肢を広げてほしい。Semester制度導入してほしい。
- 8 昼のとれる単位拡大。
- 9 昼と夜間開講の場合、昼で取れなくなるのはやめてほしい。
- 10 夜間主の生徒が昼間とダブル単位でもとれるようにしてほしい。
- 11 夜間主も色々な外国語をとれるようにしたい。
- 12 語学科目、特に第2外国語の単位は、もう少し増やしてもよいと思う。

## 2-6 年間行事予定

図表2-2-6は、今年度の年間行事予定の適切さを示したものである。この図表で、「適切である」「不適切である」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（適切34%、不適切29%）、夜間主コース（34%、21%）である。つまり、「適切である」（昼間34%、夜間主34%）は両コースとも34%であるのに対して、「不適切である」（29%、21%）は、20%台で昨年より良くなっている。ちなみに前年は、「適切である」（17%、19%）、「不適切である」（54%、47%）であることからみれば、本年の年間行事予定はある程度改善されたものと思われる。

昼間コースで「適切である」「不適切である」の2区分にわけて学年別に比較すると、1年（適切35%、不適切25%）、2年（35%、32%）、3年（32%、37%）、4年（34%、27%）である。つまり、各学年別に前年と比較しても「適切である」は10%台から30%台に増加し、「不適切である」は50%台から30%台に下がっている。他方、夜間主コースについても同じ方法で学年別に比較すると、昼間コースとほぼ同じ傾向を示し前年より良くなっている。1年（適切33%、不適切18%）、2年（36%、22%）、3年（39%、25%）、4年（22%、33%）である。

以上のことから明らかなように、今年度の年間行事予定は昼間コース、夜間主コースとも前年よりも良くなっているが、それでも20%台が不適切であるとしている。そこで、その原因を調べる必要があるだろう。



## 2-7 年間行事予定で改善してほしい点（自由記載）

先ほどの分析結果で明らかのように、昼間コース、夜間主コースとも年間行事予定は前年より改善されているが、それでも「不適切である」（昼間29%、夜間主21%）が高くなっている。そこで、学生に年間行事予定で不適切な理由をたずねた。そのなかには改善すべき点もあるように思われる。

年間行事予定で改善を望む点を示すと、次のようになる。（317件）

（昼間コース）（280件）

- 1 エバーグリーン講座をもう少し増やして学生の刺激と関心を…。
- 2 部活動の予定も少しは考えてほしい。
- 3 インカレと重ならない時期に試験を行ってほしい。
- 4 インカレと前期テストがぶつかる。7月中に終わらせてほしい。
- 5 もっと楽しい行事をやるべきだ。
- 6 球技大会やクラス対抗の行事がほしい。
- 7 学校で企画する宿泊学習などを作ってください。
- 8 大学祭はもっと活気のあるものにしてほしい。
- 9 学校祭は休みにしてほしい、休みの期間を他大学にあわせてほしい。
- 10 緑丘祭とテストの期間をもう少し離して欲しい。
- 11 忘年会、新年会をいれる。
- \*12 夏季集中講座の見直し、春休みをもう少し早めにする。
- 13 冬季集中講座の日程がない。
- 14 入学前に授業が始まるのはおかしい。
- 15 センター試験が終わるまで冬休みにしたほうがいい夏休みを前倒しして欲しい。
- 16 成人式の日くらい休みにして欲しい。
- 17 成人式の次の日に授業が始まるから地方の人は大変困る。
- 18 冬休みはせめて成人式以降に余裕をもつべきだ。1月15日までぐらい。
- \*19 毎年長期休暇とテスト日程を、ころころ変えるのはやめてほしい。
- 20 夏休みをもっと早くして欲しい。冬休みが短い。
- 21 夏休みは8・9月より7・8月の方が良い。（気温的にもスケジュール的にも）。
- 22 夏休み長すぎる、冬休み短すぎる。
- 23 冬のほうが大変なので、冬季休業を長くしてほしい。
- 24 夏季・冬季の休暇の割合が極端である。
- 25 冬は通学するのが大変なので、冬休みを長く、春休みを短くしてほしい。
- 26 冬は札幌から通う人にとって出てきにくいので夏休みを減らして冬休みを増やす。
- 27 ゼミ決めと中間試験の時期が重なって大変なのでずらして欲しかった。後、1/11

に授業が始まると、地方生は成人式に出れないので遅くして欲しい。

- \*28 試験について専門や語学は同じ日に試験を行わないようなるべくずらしてほしい。
- 29 テスト期間や夏・冬休みの期間など前もって大きくわかりやすく掲示板に貼りだしてほしい。
- 30 テストの時間割を早く教えてほしい。
- 31 テスト始まるのが遅すぎ、夏休みが入る前っていうのはいいけど、7月中に終わってほしい。
- 32 夏休み前にテストをする事はとてもいいのだが、もっと前にやってほしい。夏が終わってしまう。
- 33 テストは夏休み明け2～3週間後がよい。
- 34 前期定期テストは9月に実施してほしい。
- 35 前期の期末試験は夏休み明けに戻すべき。
- 36 試験期間が昨年度のように夏季休業後が良かった。今年度の後期期末試験は早過ぎる。
- 37 夏休みを7・8月に前期末試験を9月中旬からが一番良い（おととしと同じ）。
- 38 後期試験期間を1月中にして欲しい。
- 39 テスト期間をもっと長くして欲しい。
- 40 試験の日程をつめてもっと試験期間を短くして欲しい。
- 41 テスト準備期間を1週間ぐらいほしい。授業が終了してすぐはきつい。
- 42 テストを一週目にかためすぎ。二週目がガラガラなのに。1日5つテストの日があった。
- 43 テストの時間割をもっとばらけて欲しい。1日5教科はつらい。
- 44 資格試験と定期試験等を重ねないよう配慮すべき。

(夜間主コース) (37件)

- 1 もっと楽しい行事をふやしてほしい(七夕祭り、雪まつりとか)。
- 2 学校祭はもうちょっと派手な方がいいのでは?誰も来ませんよ。あれじゃ。
- 3 学園祭は昼・夜間コース合同でしてほしい。
- 4 夏休みを少し少なくして、もっと冬休みを増やして欲しい。
- 5 夏休み明けに2週くらい授業があって前期期末テスト…の方が良い。

## 2-8 成績評価の適切さ

図表2-2-8は、成績評価の適切さを示したものである。この図表で、「適切であった」「どちらともいえない」「不適切であった」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース(適切39%、どちらでもない43%、不適切18%)、夜間主コース(24%、55%、21%)である。つまり、「適切であった」(昼間39%、夜間主24%)は両コースともそれほど高くなっていない。それに対して、「どちらともいえない」(43%、55%)は高くなっている。また、「不適切であった」(18%、21%)は夜間主コースのほうが不満が高くなっている。ちなみに前年は、「適切であった」

(41%、35%)、「不適切であった」(18%、12%)である。

昼間コースで「適切であった」「どちらともいえない」「不適切であった」の3区分にわけて学年別に比較すると、1年(成績評価の出ている科目が少ないので除外)、2年(適切44%、どちらでもない38%、不適切17%)、3年(40%、37%、23%)、4年(46%、36%、18%)である。「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、4年(46%)、2年(44%)、3年(40%)で40%台である。また、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年(23%)、4年(18%)、2年(17%)で思っていたほど評価が低くないことにほっとしている。他方、夜間主コースについても同じ方法で、「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、2年(36%)、3年(23%)、4年(22%)である。ここで、3-4年が20%台と非常に低い評価であるのは気にかかる場所である。また、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年(33%)、2年(23%)、4年(11%)である。

ちなみに、昼間コースにおいて前年と比較しながら「適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、4年(本年46%、前年47%)、2年(44%、45%)、3年(40%、42%)である。つまり、順位は全く同じでしかも各学年とも40%台である。また、「不適切であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年(23%、24%)、4年(18%、17%)、2年(17%、18%)である。つまり、順位はほとんど同じで不満の割合もほぼ同じであるという興味深い事実が明らかとなっている。

## 2-9 成績評価で改善してほしい点(自由記載)

先ほどの分析結果では、昼間コース、夜間主コースとも「適切であった」(昼間39%、夜間主24%)はそれほど高くはなく、「どちらともいえない」(43%、55%)は非常に高くなっている。そこで、学生に成績評価で改善してほしい点をたずねた。そのなかには教官にも改善すべき点があるように思われる。

成績評価で改善を望む点を示すと、次のようになる。(234件)

(昼間コース)(199件)

- 1 僕が言うのはなんですが、単位取得がぬるすぎて、学生にとっても逆効果になっている。
- 2 勉強してない割には、単位だけは取得できたので、もっと厳しくしてもいい。
- 3 欠席届を認めて欲しい(各先生で評価を一定に)。
- 4 欠席の扱いについてまちまちなので統一基準にすべき。
- \*5 「出席、出席」と言って、くだらない授業をしないでほしい。興味を引かないから学生は出席しないことを少しは理解して。
- 6 授業に出ていても単位が取れないものもあるのに、全く出ていない人が良い単位を取っているのはどういうことか。
- 7 努力したら認めてよ。1回も休まず、きちんとやったのに。
- 8 レポートを一生懸命書いているのに不可を付けるのは止めて欲しい、最悪だ。

- 9 全出席、レポートも提出し、講演会にも行ったのに、単位をもらえなかった。納得いかない。
- 10 論述問題など正論でも先生の考えに沿わないと誤りになってしまう。
- 11 教官に気に入られるか否かで成績が決まってしまう科目があるのは不満だ。
- 12 ひいきが少なからずあると思うのでその排除。
- 13 少し厳しい、救済措置があった方がいいと思う。
- 14 救済のテストなどをやってほしい。一回のテストで決めないでほしい。
- 15 追試を認めてほしい。
- 16 追試制度の導入。
- \*17 語学で、先生によって、厳しかったり、易しかったり、バラつきが大きいのはよくない。基準をきめるべき。
- 18 出席について特に英語で差が激しい。2回欠席したら不可になるクラスがあるらしいが、それは非常に異常だと思う。
- 19 欠席と成績は関係ないと思う。3回休んだらもらえないとかおかしい。
- 20 授業への出席率を重視するべきだと思う。
- 21 日々の出席をもっと評価して欲しい。
- 22 授業への出席点を成績に評価してほしい。
- 23 テストの点だけでなく頑張った者は評価してほしい。
- 24 テストだけであれば単位がとれるというのはどうかと思う。
- 25 テストで良い点を取ればよいと言うことを止めてほしい。
- 26 点数のみ良い人が合格し真面目な人は評価されない。
- 27 努力をもっと評価。
- 28 努力はみとめてほしい。
- 29 ちゃんと勉強した人が報われる成績評価にしてほしい。
- \*30 もう少しオープンにしてほしい、評価の根拠を詳しく知りたいです。
- 31 評価そのものよりも、前期の試験結果やレポートの評価を必ず発表してほしい。
- 32 成績評価が不透明なので明確にしてほしい。
- 33 評価基準が不明朗な科目が多い。
- 34 基準が不明瞭である。もっと情報公開してほしい。
- 35 教科書マル写しの人が「良」で、自分の意見を書いた私が「不可」納得いかない。教官に警告してください。
- 36 成績評価のやり方を統一した方がよい（ex 優？%、良？%）。
- \*37 企業法の科目は試験の結果をあまり出してくれないのもっと公開してほしい。
- 38 どのように評価しているのかわからない。特に記述試験で答案が返却されない場合。
- 39 いいかげんな教師が多すぎる。もっと得点等を公表すべき。

- 40 試験、レポートなどの結果はきちんと知らせて欲しい。
- 41 テストの答案が返却されない科目があるので返却してほしい。
- 42 テストの点数を発表しないのはおかしい。特に評価についての質問には答えないなど論外である。
- 43 得点の発表を全教科してほしい。
- 44 試験の点数はすぐに出してほしい。
- 45 自分のテスト等の点を公開して欲しい。自分がどのくらいで切れたのか解らないと納得出来ない。
- 46 自分が何点テストで取れたか知りたい。必ずテスト結果を掲示すること。
- 47 テストの点数が公開されなかった科目についての評価に疑問があったこと。
- 48 試験の点数、前期科目の単位が取得できたかどうかを公表して欲しい。
- 49 半期制科目は早めに成績を教えてほしい。
- 50 前期・後期ごとに成績出してほしい。
- 51 前期は前期で、後期は後期で発表してほしい。
- 52 前期だけの成績表がほしいです。
- 53 前期に終了した授業は後期の初めに評価してほしい。語学の単位を取り易くしてほしい。
- 54 前期の成績は前期中に告知して欲しい。
- 55 半期科目は、前期が終わった時点で成績を教えて欲しい。全ての科目の点数を教えて欲しい。
- \*56 先生によって、成績のつけ方がかなり適当な人がいます。
- 57 とくに社会情報は試験の結果をあまり発表しないので状況がわからない。

(夜間主コース) (35件)

- 1 いったいどんな風に点数つけるのか教えてほしい。
- 2 答案を返してくれたり、テスト後のケアがほしい。
- 3 点数を公開してほしいです。
- 4 全授業で点数公開すべき。
- 5 評価方法自体より、結果がなかなかわからないことが不満。もっと早く知りたい。
- 6 成績評価の時期が遅すぎる。半期ずつ出してほしい。
- \*7 成績表を、前期、後期と、わけて出してほしい。つまり Semester 制の導入を望む。
- 8 10月頃に前期分については成績を教えてほしい。
- 9 授業態度も、きちんと見てほしい。寝ている人もいるから。
- 10 出席、頑張り度をもっと評価してほしい。
- 11 夜間の学生は出席する事に重点を置いて頂きたい。
- 12 出席をしっかりとってほしい。代返できないように。

- 13 出席をとって、講義に出席している人、していない人の差を付けて欲しい。テストだけ受ける人がいて、何のために大学に来ているのかわからない人がいるため。
- 14 出席日数を重要視することはまちがっていると思います。
- \*15 翌年度の始めに各先生たちの成績評価の基準を示してほしい。
- 16 前もって基準を明示してほしい。後で評価方法変えないでほしい。
- 17 成績評価の基準をきちんと示してほしい。
- 18 評価基準の開示。社会人学生に対しての評価基準をつくってほしい。

## 2-10 学生の受講態度

図表2-2-10は、学生の受講態度の熱心さを示したものである。この図表で、「熱心であった」「どちらともいえない」「熱心でなかった」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（熱心17%、どちらでもない43%、不熱心40%）、夜間主コース（23%、42%、35%）である。つまり、「熱心であった」（昼間17%、夜間主23%）は両コースとも非常に低く、特に昼間コースでは17%と驚くべき数値である。それにもない、「どちらともいえない」（43%、42%）は40%台で非常に高くなっている。また、「熱心でなかった」（40%、35%）は昼間コースが非常に高くなっている。

昼間コースで「熱心であった」「どちらともいえない」「熱心でなかった」の3区分にわけて学年別に比較すると、1年（熱心15%、どちらでもない42%、不熱心43%）、2年（19%、47%、34%）、3年（21%、39%、40%）、4年（16%、38%、46%）である。「熱心であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年（21%）、2年（19%）、4年（16%）、1年（15%）である。また、「熱心でなかった」の割合が大きい順に並べてみると、4年（46%）、1年（43%）、3年（40%）、2年（34%）である。つまり、各学年をみても30-40%台であり、この数値は驚くばかりである。他方、夜間主コースで「熱心であった」「どちらともいえない」「熱心でなかった」の3区分にわけて学年別に比較すると、1年（熱心25%、どちらでもない32%、不熱心43%）、2年（31%、50%、19%）、3年（7%、60%、33%）、4年（22%、33%、44%）である。「熱心であった」の割合が大きい順に並べてみると、2年（31%）、1年（25%）、4年（22%）、3年（7%）である。また、「熱心でなかった」の割合が大きい順に並べてみると、4年（44%）、1年（43%）、3年（33%）、2年（19%）である。つまり、「熱心でなかった」の順序は両コースとも全く同じであるのは興味深いところである。

ちなみに、学生の受講態度を前年と比較してみよう。「熱心であった」は昼間コース（本年17%、前年19%）、夜間主コース（23%、33%）である。他方、昼間コースで「熱心であった」の割合が大きい順に並べてみると、3年（本年21%、前年19%）、2年（19%、12%）、4年（16%、23%）、1年（15%、26%）である。また、「熱心でなかった」の割合が大きい順に並べてみると、4年（46%、33%）、1年（43%、32%）、3年（40%、34%）、2年（34%、43%）である。つまり、「熱心でなかった」が4・1・3年で10ポイント位高くなっているのは注意すべきことであろう。

## 2-11 学生の受講態度で改善してほしい点（自由記載）

先ほどの分析結果では、学生の受講態度で「熱心であった」（昼間17%、夜間主23%）は両コースとも非常に低く、特に昼間コースの17%は驚くべき数値である。また、「熱心でなかった」（40%、35%）は昼間コースで40%にもなっている。この数値は、学生の自己反省をこめた率直な意見であるように見受けられる。そこで、学生の受講態度で改善してほしい点をたずねた。そのなかには教官にも改善すべき点があるように思われる。

学生の受講態度で改善すべき点を示すと、次のようになる。（321件）

（昼間コース）（199件）

- 1 授業を楽しくすれば学生も熱心に聞くとと思う。
- 2 興味のもてる授業にしてください。
- 3 自分が興味をもてる講義なら学生は必ず聞くのもっと楽しい講義を。
- 4 先生が面白く授業をやると、寝る学生が減ると思う。
- 5 学生が進んで聞き入るような内容を行うべき。
- 6 目的を持たずに大学に来てしまった学生の意識改革を行えば最高だと思ふ。
- 7 もっと興味をもって自主的に取り組むこと。
- \*8 質問する学生にとってあたたかい環境がほしい。
- 9 予習をする、静かにするなどの基本的な所が欠けている。
- 10 学びたい人だけ受ければ雑談も少なくなる。
- 11 しゃべらない。（講義中）少なくとも人の邪魔をしない。出席はなるべくすべき。
- 12 出席をとる授業がうるさすぎる。
- 13 出席のためだけに講義に出る点。
- 14 出席だけ出して帰るのはやめたほうが良い。
- 15 出欠を取るの（語学以外では）意味なし。個々の学生の意欲を尊重すべき。
- 16 どの教科書も出欠を取るべきでない。そんなことをすると邪魔な人間が増えるだけ。
- 17 出席が半分に満たない者は、無条件で不可をつけるべき。
- \*18 私語、電話、場所取り、代返。
- 19 私語はつつしむなど最低限のマナーは守るべき。
- 20 私語は厳しく注意したほうが良いのでは。
- 21 うるさい授業中の私語、携帯、PHSの着信音について、うるさいくらい注意してほしい。
- 22 うるさい学生は、強制退出させるべき。
- 23 私語を話す人は即座に且強制的に退室させる。
- 24 もっと教授が厳しくてもいいと思う。私語しているのは退席させるべき。
- 25 広い教室の授業だとお喋りが多いのでもう少し静かにしてほしい。

- 26 私語が多い。楽しんで単位を稼ごうとする雰囲気が強すぎる。
- 27 私語をする、ましてやいびきをかきほど熟睡する人がいる。
- 28 私語を慎む。授業中の出入りは控えめにする。
- 29 私語をなくし、講義の途中で教室に入ってくる人を少なくするべき。
- 30 授業の途中で抜け出すのは好ましくない。
- 31 時間厳守して途中からの出席、退席はやめるべき。
- 32 遅刻したのにでかい態度でいる、それに出席点を与える教授。
- \*33 代返ですます態度
- 34 代返をできるだけなくすれば真面目に出席すると思う。
- 35 携帯電話の電源は切って受講すべきだ。
- 36 携帯電話、PHSは講義の間は電源をOFFにするか、音の出ないようにする。
- 37 携帯の電源ON、私語等話にならない状態が続いている点。

(夜間主コース) (122件)

- 1 学生の受講態度は、先生次第。
- 2 学生が聞いていて、楽しく、次も受けたい授業をしないと学生の受講態度も改善しないと思う。
- 3 予習・復習でわからないことを授業のせいにしないこと。
- 4 わからないところは質問する。
- 5 もっと前の席で受けたほうがいい。
- \*6 出席を目的に来て、うるさくしている人もいると思うので、この際出欠を取らなければいい。
- 7 居眠りをしたり、話をしたりするなら授業に出てこなければいいと感じる。
- 8 講義中のムダ話しをしている人間は教官自らが退室させるべきです。
- 9 昼の授業は私語が多すぎるので、そういう人を退出させて欲しい。

## 2-12 望ましい教師像

図表2-2-12は、望ましい教師像を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースとも同じ傾向を示している。つまり、1位「わかりやすい講義」(昼間51%、夜間主50%)、2位「学問に対する関心を高める」(40%、39%)、3位「熱心に講義」(7%、9%)である。また、昼間コースを先ほどと同じように、学年別に順位をとっても全く同じであり、1位「わかりやすい講義」(1年48%、2年50%、3年56%、4年52%)、2位「学問に対する関心を高める」(41%、42%、37%、36%)、3位「熱心に講義」(6%、6%、6%、8%)である。

ちなみに、望ましい教師像を前年と比較してみよう。1位「わかりやすい講義」は昼間コース(本年51%、前年55%)、夜間主コース(50%、57%)、2位「学問に対する関心を高める」(40%、34%)、



夜間主コース（39%、29%）、3位「熱心に講義」は昼間コース（7%、8%）、夜間主コース（9%、7%）である。つまり、「わかりやすい講義」は前年より少し低くなっているのに対して、「学問に対する関心を高める」は高くなっている。ここで注目すべきことは、「熱心に講義」が両コースも10%以下で非常に低い評価になっていることである。この点を検討するには、「望ましい教師像」の選択にあたって一つ選択という回答方式を変更する必要があるように思われる。

次は、望ましい教師像「その他」の学生意見を示したものである。そのなかのいくつかを示すことにする。

- 1 公平な成績評価をしてくれる教師。
- 2 努力をした人にはそれだけの評価をする教師。
- 3 あとでノートを見たときに思い出せる。
- 4 その授業を通じて自分は成長したと思える講義をしてくれた方。
- 5 単位を簡単にくれる先生。

望ましい教師像「その他」の学生意見を示すと、次のようになる。

（昼間コース）

- 1 単位をくれる教師。
- 2 単位を簡単にくれる先生。
- 3 テストをやらない。
- 4 休講の多い教師。
- 5 面白い先生。
- 6 あとでノートを見たときに思い出せる。
- 7 私達を話にひきこんで離さないような人。
- 8 学生の身になって講義をしてくれる教師。
- 9 その授業を通じて自分は成長したと思える講義をしてくれた方。

（夜間主コース）

- 1 公平な成績評価をしてくれる教師。
- 2 努力をきちんと認めてくれる者。
- 3 努力をした人にはそれだけの評価をする教師。
- 4 単位を簡単にくれる人。
- 5 講義の途中で生徒に不利益な約束をしない人、約束の守れる人、自分の言葉に責任を持つ人。
- 6 自分のビジョンがある。やる気がある。

## 2-13 望ましい教師の割合

図表2-2-13は、望ましい教師の割合を示したものである。この図表で、「80%以上」「50%位」「30%以下」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（「80%以上」11%、「50%位」36%、「30%以下」53%）、夜間主コース（13%、34%、53%）である。つまり、望ましい教師の割合が「80%以上」（昼間11%、夜間主13%）は、両コースとも10%台と非常に低くなっている。また、「30%以下」（53%、53%）では、50%台と非常に大きな数値になっている。昼間コースで3区分にわけて学年別に比較すると、1年（「80%以上」10%、「50%位」32%、「30%以下」58%）、2年（10%、37%、53%）、3年（14%、38%、48%）、4年（11%、40%、49%）である。「80%以上」の割合は、10%台と非常に低くなっている。他方、夜間主コースで3区分にわけて学年別に比較すると、1年（「80%以上」16%、「50%位」26%、「30%以下」58%）、2年（11%、34%、55%）、3年（10%、53%、37%）、4年（11%、33%、56%）である。つまり、「80%以上」の割合は、昼間コースとほとんど同じ傾向を示している。

ちなみに、望ましい教師の割合を前年と比較してみよう。「80%以上」は昼間コース（本年11%、前年12%）、夜間主コース（13%、16%）で両コースとも10%台と非常に低い評価になっている。また、「30%以下」は昼間コース（53%、46%）、夜間主コース（53%、39%）で両コースとも悪化している。

以上のように、望ましい教師は、「80%以上」は10%台、「30%以下」は50%台と予想していたよりも厳しい結果になっている。この評価結果について、種々の見解があるところであろう。しかし、教官は、学生意見に率直に耳を傾け、改善すべきことは進んで実行してもらいたいものである。

## 2-14 教室、マイク等の使い方

図表2-2-14は、教室、マイク等の使い方を示したものである。この図表で、「適切であった」「どちらともいえない」「適切でなかった」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（適切31%、どちらでもない34%、不適切35%）、夜間主コース（37%、27%、36%）である。つまり、「適切であった」（昼間31%、夜間主37%）は両コースとも30%台、「適切でなかった」（35%、36%）もともに30%台と非常に高くなっている。また、先ほどと同じように、3区分にわけて昼間コース、夜間主コースを学年別に比較してみても、ほぼ同じ結果になっている。

教室、マイク等の使い方「適切でなかった」例として、たとえば、次のようなものがある。

- 1 大教室、中教室の講義はできるだけマイクを使ってほしい。
- 2 教室の設備（マイク、OHP）を教授がうまく使えないのは少し問題がある。
- 3 設備を熟知している教師の方が少ないように思う。だからマスタ-を期待。
- 4 先生はみんな機械を理解して効果的に使ってほしい。
- 5 広い教室はマイクの使用を教師にちゃんと教えて、使って講義してほしい。

## 2-15 教室の設備で改善してほしい点（自由記載）

教室の設備で改善を望む点を示すと、次のようになる。（315件）

（昼間コース）（274件）

- 1 受講する生徒数に対して教室が狭いことがあった。
- 2 教室の席が少なく履修者全員が座れない講義があった。広い教室を作って欲しい。
- 3 人数が多すぎて始めのほうは講義にでる気をうせる。少したってからちょうどよくなる。なんとか人数を調整してほしい。
- 4 人数に合わせた教室を選んでほしい。むやみに広い教室を選び前に学生を座らせるのは、あらゆる面で無駄が多い。
- 5 語学の教室の小さな机は勉強しづらいし、疲れる。あと夏に暑い。
- 6 やはり黒板が見づらい事、声の小さい先生や声が割れている先生もいる。
- \*7 年配の先生にも使えるようより簡単にあるいはマニュアルを作ってほしい。
- 8 マイクを使わない教官がいて何を言っているのかわからない。
- 9 設備をもっと教官が知らないダメだ。そうしないとトラブルに対処できない。
- 10 マイクの使い方が下手な教官が非常に多い。
- 11 マイクの音声が聞き取りにくいことがある（210番教室）。
- 12 マイクが聞き取りにくい。雑音が入っている。クリアにしてほしい。
- 13 210番教室のマイクの雑音なんとかしてほしい。160番教室寒すぎる。
- 14 160教室はマイクやビデオが壊れやすい。暖房切れてたり、ききすぎたりする。
- 15 映像設備（スクリーン、センター）を充実させてほしい。
- 16 160教室でのビデオがついたりつかなかったりする。画面がぶれることがある。
- 17 160のプロジェクトははっきり言って見たくない。どうにかして新しくするべき。
- 18 160教室の暖房設備。いつでも寒い。マイクの設備が全体的に悪い。
- 19 情報処理室の気温を夏はもっと高く、冬はもっと低くしてほしい。
- 20 160番教室に暖房が入らない時間がある。
- 21 暖房の全くきかない場所とききすぎて暑い場所との差がはげしい。
- 22 室内をどの教室も温かくしてほしい。座れない講義は教室を考えてほしい。
- 23 冬寒く、夏暑いのは嫌。あと暑いときは鼻血が出そうなくらい暑いから困ります。あと教室の行き来が不便です。怪我をしたとき不便でした。
- 24 ときどき電球が切れていたりしています。
- 25 電灯がちかちかしたり、教室広いのにマイク使わない人がいたり。
- 26 213号室の機材にトラブルが多い。
- \*27 音割れのしないマイクの設置。

28 マイクが悪い。教室がせまい。

(夜間主コース) (41件)

- 1 冬季間特に夜間コースの講義が終了時暖房をお願いしたい。
- 2 大きな教室での冬期の授業は暖房がきいていなくて寒い。
- \*3 OHP、スライド、プロジェクター等見づらい。先生方が使い方をわかっていないことが多い。
- 4 ビデオ等の使い方を教授の方々に分かり易いマニュアルを整備して欲しい。
- 5 213や106のビデオが、必ず最初はトラブル起こす。
- 6 広い教室では板書・OHPが見づらいので改善してほしい。
- 7 OHPが見にくい。広い教室では常にマイクを使ってほしい。
- 8 160. 104. 105などの大きい教室のテレビがなくなったのに、それを補うものがあるにもかかわらず、教官がプロジェクターなどを使えないので、映像の資料などが見れない。講習会などを開いてほしい。
- 9 いすと机がくっついているのはかなり不便。

### 3 ゼミナール

#### 3-1 ゼミナールの所属

図表2-3-1は、学生のゼミナール所属を示したものである。この図表で、「ゼミ所属している」「ノンゼミである」「応募資格がない」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース(所属69%、ノンゼミ34%、資格なし27%)、夜間主コース(41%、9%、50%)である。この結果は、1年が未だゼミの応募資格がないので適切であるとはいえない。そこで次に、学年別に検討してみよう。昼間コースを「ゼミ所属している」「ノンゼミである」の2区分にわけて学年別に比較すると、2年(所属95%、ノンゼミ34%)、3年(95%、5%)、4年(97%、3%)である。また、夜間主コースも同じように、2区分にわけて学年別に比較すると、2年(所属64%、ノンゼミ16%)、3年(87%、10%)、4年(88%、12%)である。

「ゼミ所属している」は、昼間コース(2年95%、3年95%)では非常に高い数値を示しているのに対して、夜間主コース(64%、87%)では2年が非常に低くなっている。

#### 3-2-1 ゼミナールの所属希望

図表2-3-2-1は、学生のゼミナール所属希望(現在まだ応募資格はない)を示したものである。この図表で、「ゼミ所属したい」「ゼミ所属したくない」「未だわからない」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース(したい76%、したくない5%、わからない19%)、夜間主コース(62%、8%、30%)である。昼間コースを先ほどと同じように、3区分にわけて学年別

に比較すると、1年（したい78%、したくない3%、わからない19%）、2年（61%、17%、22%）である。また、夜間主コースも同じように、3区分にわけて学年別に比較すると、1年（したい65%、したくない7%、わからない28%）、2年（50%、14%、36%）である。

「ゼミ所属」を希望する者は、昼間コース（1年78%、2年61%）では比較的高い数値を示しているのに対して、夜間主コース（65%、50%）で2年（50%）はかなり低くなっている。

### 3-2-2 ゼミナール所属の希望理由（現在まだ応募資格はない）（複数回答可）

図表2-3-2-2は、ゼミ所属の希望理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを順位の高いものから並べてみると、1位「大学に入ったからにはゼミをとるべきだ」（昼間37%、夜間主36%）、2位「必要な単位を取るには講義より良い」（25%、29%）、3位「興味ある科目のゼミ」（22%、16%）である。

### 3-3-1 ノンゼミ生になった理由（複数回答可）

図表2-3-3-1は、ノンゼミ生になった理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを順位の高いものから並べてみると、昼間コースでは、1位「希望科目のゼミがなかった」（32%）、2位「指導を受けたい教師がいなかった」（18%）、3位「希望ゼミに入れなかった」（14%）である。また、夜間主コースでは、1位「希望科目のゼミがなかった」、「指導を受けたい教師がいなかった」、「講義を取る方が楽だ」（21%）である。ここで注目すべきことは、「卒論を書きたくない」（昼間11%、夜間主16%）が10%台もいることである。

### 3-3-2 ノンゼミ生の良否

図表2-3-3-2は、ノンゼミ生の良否を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを順位の高いものから並べてみると、両コースはほとんど同じで、1位「よく分からない」（昼間52%、夜間主67%）、2位「ノンゼミ生で良かった」、「ゼミ所属が良かった」（24%、17%）である。

## 3-4 ゼミナール所属者

### 3-4-1 ゼミナールの希望理由（複数回答可）

図表2-3-4-1は、ゼミナールの希望理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを順位の高いものから並べてみると、両コースは全く同じ順位である。1位「大学ではゼミを取るべきだ」（昼間40%、夜間主37%）、2位「興味ある科目のゼミがある」（25%、24%）、3位は「講義を取るより楽である」（20%、22%）である。

昼間コースで学年別に順位をみると、2-4年とも全く同じ順位である。1位「大学ではゼミを取るべきだ」（2年38%、3年42%、4年42%）、2位「興味ある科目のゼミがある」（26%、24%、24%）、3位は「講義を取るより楽である」（20%、22%、20%）である。他方、夜間主コースで学年別に順

位をみると、昼間コースとほぼ同じである。つまり、ゼミの希望理由は、「大学ではゼミを取るべきだ」「興味ある科目のゼミ」そして「講義を取るより楽である」に要約することができる。

次は、ゼミナールの希望理由「その他」における学生意見を示したものである。そのなかのいくつかを示すことにする。

- 1 この大学の売りはゼミらしいから。
- 2 友達が増やせると思ったから。
- 3 部活以外でも学年を超えて付き合いができる人がいればよいと思ったから。
- 4 内容の濃い講義を受けられるから。
- 5 何か1つ専門的な知識を得たいと思ったから。
- 6 就職活動に有利だと思ったから
- 7 大学を卒業するからには卒論を書いてみたいと思ったから。

#### (昼間コース) (34件)

- 1 この大学の売りはゼミらしいから。
- 2 入るものだと思っていた。
- 3 ゼミに入ったほうが楽しいから。
- 4 ゼミの雰囲気がよさそうだったから。
- 5 友達が増やせると思ったから。
- 6 部活以外でも学年を超えて付き合いができる人がいればよいと思ったから。
- \*7 内容の濃い講義を受けられるから。
- 8 個人的に学びたいことを深く勉強できると思ったから。
- 9 専門の勉強にプラスになると思ったから。
- 10 専門的な知識を身につけたい。
- 11 何か1つ専門的な知識を得たいと思ったから。
- 12 専門的知識が必要であると考えていたから。
- 13 集団学習をしてみたいと思ったから。
- \*14 ゼミに入っていないと就職の時に不利だと思ったから。
- 15 就職活動に有利だと思ったから。
- 16 就職の面接の時に役立つから。
- 17 就職活動での面接で話題ができると思ったから。
- 18 将来(公務員)のために役立つと思ったから。

#### (夜間主コース) (3件)

- 1 大学を卒業するからには卒論を書いてみたいと思ったから。

- 2 専門を勉強するのに役立てたかった。
- 3 就職活動に役立てたかった。

### 3-4-2 所属ゼミナールの希望順位

図表2-3-4-2は、ゼミナールの希望順位を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを比較すると、「第一順位」（昼間99.7%、夜間主97.8%）、「第二順位等」（0.3%、2.2%）である。つまり、「第一順位」の数値は、他の数値と比較しても少し高いような気がする。

### 3-4-3 所属ゼミナールの満足度

図表2-3-4-3は、所属ゼミナールの満足度を示したものである。この図表で、「満足している」「どちらともいえない」「不満である」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（満足62%、どちらでもない29%、不満9%）、夜間主コース（51%、37%、12%）である。つまり、「満足している」（昼間62%、夜間主51%）は昼間コースでは62%であるのに対して、夜間主コースでは51%である。それに対して、「不満である」（9%、12%）では予想したよりも低くなっている。昼間コースで3区分にわけて2-4年を比較すると、「満足している」（2年55%、3年72%、4年67%）、「どちらともいえない」（36%、18%、27%）、「不満である」（10%、11%、7%）である。他方、夜間主コースで3区分にわけて2-4年を比較すると、「満足している」（2年40%、3年65%、4年20%）、「どちらともいえない」（50%、19%、80%）、「不満である」（10%、15%、0%）である。

ちなみに、所属ゼミナールの満足度を前年と比較してみよう。「満足している」は昼間コース（本年62%、前年70%）、夜間主コース（51%、47%）で昼間コースは少し低くなっているのに対して、夜間主コースは少し高くなっている。また、「不満である」は昼間コース（9%、7%）、夜間主コース（12%、15%）で両コースとも前年とほぼ同じである。

### 3-4-4 所属ゼミナールの満足・不満足な理由（自由記載）

先の結果で明らかのように、所属ゼミに対して「満足している」（昼間62%、夜間主51%）、「不満である」（9%、12%）の数値であり、その理由を示した。

所属ゼミナールの満足な点と不満足な点（122件）

（昼間コース）（105件）

（満足な点）

- 1 大学生活の中で一番勉強になった。
- 2 ちょー満足してます。先生の授業も興味深いし、ゼミ生も楽しい。
- 3 先生がおもしろい。内容もおもしろい。
- 4 先生がとても熱心で信頼できる人なので。

- 5 先生が一生懸命指導してくれるので。
- 6 先生が親切で説明も解りやすい。
- 7 親切に指導してくれるから。
- 8 親切で優しく教えてくれる先生に感謝します。
- 9 自分の勉強したい科目がゼミにあったから。
- 10 教官の説明が詳しい。
- \*11 ゼミのメンバーも楽しく、討論内容も興味のあるものだから。
- 12 興味がどんどん引き出してくれるから。
- 13 興味がもてる内容で、ゼミの雰囲気も良いから。
- 14 自分の興味を持っていることに取り組んでいるから。
- 15 関心の高い話をたくさんしてくれて満足。
- 16 他ではできない実践ができる。とても満足している。
- 17 色々な知識を得ることができて、勉強が楽しい。
- 18 実際の授業よりも知的関心を高めてくれるし知識の増え方もすごい。やることはハードだが充実しているから。
- 19 自分のペースで学習できる所が気に入っています。
- 20 ゼミ生一人一人のやる気が反映されて良い。
- 21 かなりまじめに勉強できてよい。合同なのでそれぞれの時間が少ないことが短所。
- 22 しっかり学習できる環境を作ってくれたから。
- 23 サークル活動を除けば、唯一のグループ作業が営める場所。ここで得た知識は将来必ず役に立つと思います。
- 24 勉強のみならず、「息抜き」をあわせてくれる。けじめがついている点。
- 25 課題の本は難しいが勉強になるので為になる。

(不満な点)

- 1 先生がいやだ。
- 2 内容が低レベル。やる気のない学生が多い。人数が多すぎる(20人)。
- 3 あまり熱心なゼミでなく雰囲気に活気がない。
- 4 ゼミに活気が全くない、やっている内容ばかりか雰囲気にも面白みを感じられない。
- 5 ゼミ生も悪いのかもしれませんが、ゼミとして機能が全くゼロです。先生は僕らに何を望み何を自身は目指しているのかさっぱりわかりません。とにかく、もっとたくさんのことを吸収したいのに、そういうふうには持って行ってくれません。最悪です。
- 6 先生の話がちょっとわかりにくい。考えているのと違った。
- 7 もう少し体系的に、そして、目的を明確にして身になる自分のためになる内容をやってほしい。
- 8 授業が単調過ぎる、工夫がなさすぎる。時間が長い。



- \*9 シラバスの内容と違う。
- 10 予想していたものとても違う。実践的なものだと思ったのに、理論ばかり。
- 11 第1希望のゼミではないので、自分が勉強したかった事と少し内容が違うから。
- 12 人数が多すぎる点が不満、内容には満足してるが。
- 13 宿題多すぎ。
- 14 もう少し早く終わってほしいです。長すぎる。
- 15 あまり規律に厳しくしないほうがよいです。
- 16 ゼミ内の行事は大切ですが金のかかる行事をたくさんされても困ります。
- \*17 企業法のゼミが少なく、魅力あるゼミは人気が高く入れない。入りたいところが無くなる。
- 18 専門準備演習の情報を、もっと早く、詳しく教えてほしかった。もしくは、3年になってからでも入れる商学のゼミを増やしてほしい。
- 19 ゼミの面接で受かる基準が何であるのか明確にして欲しい。落ちた生徒の気持ちも考えるべき。教授は適当に選んで。
- 20 教師が何を基準にゼミ生を選んだのか明確でない。誰よりも熱意があり、自主的な事前の勉強をしていた友人が落ちたのは納得できない。
- 21 卒業する前に担当教授がいなくなるとかは止めてほしい。事前にわかっていたならば、ゼミを応募しないでほしい。その教授の元で学びたくて入ったのに。
- 22 ゼミ室をもっと欲しい。

(夜間主コース) (17件)

(満足な点)

- 1 先生がすばらしい。
- 2 マンツーマンで行なったほうが能率いいと思った。
- 3 現在のゼミは討論も活発で、勉強になることが多い。人間関係も悪くない。
- 4 自分が学問したかった分野であるので満足しています。

(不満な点)

- 1 いい先生が夜間でゼミを開かない。
- 2 将来設計を変えた人が多く、ゼミの内容を学ぼうという意欲が少ない。
- 3 他のゼミに比べて、発表の回数が多いが内容的に楽であり、緊張しない。
- 4 教官の趣味の時間のような感じで、自分の学科にあまり関係ない。
- 5 ゼミに所属したいけど興味もてるゼミがないような気がする。
- 6 楽だけど手を抜けるので勉強にならないかも。
- 7 夜間の人に昼間のゼミに入る道を聞いてほしい。

#### 4 その他、授業・ゼミ等について改善してほしい点・良い点等（自由記載）

授業・ゼミ等で良い点と改善を望む点を示すと、次のようになる。（167件）

（昼間コース）（133件）

（良い点）

- 1 自分がまじめに授業をきいていることもあるかもしれませんが、昨年よりも、どの先生の話も比較的、わかりやすかったことがよかったです。
- 2 特に専門科目には興味深い講義がたくさんありました。般教の科目にも期待して良い。

（改善を望む点）

- 1 先生方個人についてのアンケートを実施して欲しい。教えるのが下手であったり、不親切であったりする方もいる。
- 2 お疲れ様です。経費のむだを感じられる。
- 3 このアンケートにかかるコストが無駄だ。
- 4 生徒による教師評価をもっとしてほしい。
- 5 授業の評価をすべて公開するべきである。そうしないと、自分の評価のされ方がわからないので、次の年への自分の改善点を見出すことができない。
- \*6 教えてやっているという傲慢な教授が多くいる。研究で忙しいのはわかるが、以前H教授は教授はサービス業、学生の要望にこたえることが仕事とおっしゃっていた。こういう教授が増えない限り学生側も改善されないと思うのは私だけでしょうか。
- 7 良い先生と悪い先生の差がありすぎ。M最悪。
- 8 いかにもその科目に対する興味を持たせてくれるか、をテーマに講義してほしい。夏期集中の「公共経済学」はとても面白かった。ためになった。あのような授業を望みます。
- 9 先生たちは、もっと学生に教えるということに気を使ってほしい。（学生の態度も悪いが）要するにTeaching Skillを磨いてほしい。分かりにくいものや、興味を持たないような教え方が多い。
- 10 先生の熱意がほしい。おもしろい人がいい。
- 11 授業にやる気のない先生もいれば、もはやいじめともいえることをする先生もいる。そこらへんをなくして欲しい。
- \*12 正直、私が知っているほとんどの教官が「教育」に対して素人であり、このままだと商大もダメになる一方の気がします。
- 13 学生の向学心を高める授業をしてほしい。
- 14 全体的に楽しい授業をしようとする教師がいない。
- 15 先生のトークが面白かったりわかりやすい講義だと自然とやる気になるので先生ももっと頑

張ってほしい。例えば授業を急ぎすぎて「あとは読んだらわかりますね。」は反則。Y先生の講義はとても楽しいです。

16 身勝手な講師が多い、ポイントがわからない。

17 学生の理解しないうちに進んでしまう先生がいる。進めばいいというものではないので、的を絞ってしっかり学んだほうが良い。

18 I-(12)に関して、分かりやすい講義といっても教授自身は分かりやすく丁寧に講義をしているつもりでも、学生の理解力、理解度のレベルを把握していない教授が多く、何もわからないということがあった。学生も態度を改めるべきだが教授も改めないと溝は深まるばかりだ！。

\*19 教師が冷酷だ。古い考え方を生徒に押しつけないでほしい。生徒に文句をつけないでほしい。

20 専門の教官に質問しても忙しいのか答えてくれない(T教官、出席していない学生と決めつけられ答えてくれなかった)。

\*21 私情を授業に持ちこまないでほしい。

22 1年次の英語で教師によって難易度の差が大きいのので改善してほしい。

23 語学の授業では指導教官によって単位取得の難しさが異なるので共通の試験を実施すべきだ。

24 語学など先生によって単位をとるのが難しいものがある。

\*25 クラス分けが欲しい。

26 商大に入ったのは英語をきちんと学べると思ったからであったが、実際授業を受けてみればガッカリした。古臭い本ばかりやったりするのは自己満足か。あるいはその先生自身が楽しそうとしているのではないのでしょうか。現代使わないような英文(哲学・経済等)をやるよりは、実際海外で使用できるような英語をやってもらいたいです。

\*27 一つの講義時間の中で、開講している講義数が少ないように感じる。講義室にあふれるだけの人数はどうにかするべきだと思う。

28 字をもっと大きく丁寧に書いてほしい講義がある。はっきりと言葉を言ってほしい講義もある。

29 教師ではっきりしゃべらない人がいる。

30 マイクを使う先生の中で、マイクが近すぎて声が割れて逆に聞きづらくしている先生がいたのでなおしてほしい。

\*31 大教室でありながらマイクを使わない。字が小さくてしかも汚く見づらい。教科書の棒読みしかしないなどの教官がいて大変学習意欲がなくなる。このような一部の教官に対する公正な対応を求める。

32 学生のマナーの改善が緊急を要する問題であり、情けないことだが取り締まっていけないと大学自体がだめになる。

- 33 社会情報科目に半期で4単位取れる科目や、夏期集中も作ってほしい。学科によって、科目数のバラツキがある。
- \*34 テストを行なった場合、答案が返却されないこともある。今後の学習にも使いたいので、できれば返却していただきたい。
- 35 4月の時点で後期の履修届も出してしまうのではなく、前期の結果がわかってから届出をすることができるようになってほしいです。
- 36 毎年毎年シラバスが使えない。わかりにくい。学年別にしなさい。
- 37 後期授業は授業内容を見ずシラバスだけで選ぶので、できれば見て選びたい。
- \*38 体育会への配慮がなさ過ぎる。
- 39 図書館で電話がなるのは仕方ないですが、その後平然と大きな声で話す人をどうにかしてほしい
- 40 もっと生徒が多く授業に参加するよう工夫するべきだ。
- \*41 先生達が、自分の書いた本を生徒に売りつけるのはやめて欲しい。ハードカバーじゃなくて、文庫型の教科書ならば、値段も安くて買いやすい。
- 42 シラバスでは教科書を指定しながら使用しなかった先生が何人かいる。指定したからには使うべき。使用しないなら参考文献にとどめるべき。
- \*43 総合科目Ⅱはこれから続けていくべき、現学生が失っている商大のすごさや誇り、さらには将来の職業や人生観を考えるのに非常に参考になる。あと難しいことだと思いますが、教授の皆さんにただ専門的な事を教えて満足するのではなく、「これからの日本を支える若者を育てている、将来のリーダーとなるように育てている」というような思いをもっと前面に出して熱い情熱を持って指導してください。商大のレベルもあなた方にかかっている面もあると思います。(もちろん学生のやる気がいちばん大事なんですけどね)それを引き出してくれるような教授でいてください。
- 44 古い制度ではありますが、各学科の概論を一年かけて学び自分の進路を決めることの出来た僕達の代までのシステムはとても良かったと思います。私見ではありますが、大学受験の時点で学科を決定してしまうのは弊害が大きいと思います。商大に入ろうと思ったのはいいのですが、各学科で学ぶ内容が入学案内等でしか知らない段階で決定するのは難しいと思います。その結果、各学科の受験科目とセンター試験の点数配分により、自分が有利に受験できる学科を選ぶという本末転倒に陥ってしまいます。本学は、学科間の柔軟な相互交流が認められているのでまだ良いと思いますが、それでも必修科目等が自分の学びたかったものではなかったということが大いにありうると思います。ですから代替案を勝手に述べさせてもらいますと、2次試験にも面接を導入したらどうでしょうか。本学は、小規模であるという特徴をもっと活用していくべきであると思います。面接をすることで学生の目的意識を測ることができ、目的を持つ

てその学問を4年間学ぶ学生と一年間やりたいことを模索し、その上で学科を選ぶ学生に二分することが出来ます。ですから、このような2種類の学生を許容できるシステムが確立できればとおもいます。管理棟の方々の苦勞を除けば先生方、学生側双方にメリットがおおいにあるでしょう。これは、僕が自分の周囲の友人や後輩を見ていておもったことですので、全体的には当てはまらないかもしれません。4年間を振り返ってみて思う事は、商大に入りサークル活動やゼミを通して過ごしてきた学生生活に満足できるという事です。これからも良き人材を輩出するために頑張ってください。

(夜間主コース) (34件)

(良い点)

- 1 授業を解りやすく講義してくれ、その内容に興味があった。
- 2 今やっている内容が、日本の今の時代にピッタリなのでおもしろいです。
- 3 OHPや、ビデオをとり入れる先生が多かったのがよかった。

(改善を望む点)

- 1 夜間主の人が2年次から昼間コースへ編入できるような制度をつくってほしい。
- 2 授業が楽しく思えるような教え方を！！。
- \*3 先生によっては、講義に手を抜いている感じがする。例えば、一方的に話して時間とともに誰よりも早く帰るなど、質問しようにも質問できない。他、OHPばかりで、講義といえるものではないような講義もある。
- 4 教官の声が小さくて何をいっているのかわからない。はっきり話して欲しい。
- 5 授業の進み具合を減速して、もっと中心的に教えてほしい分野があったので、それを考えてほしい。
- \*6 夜間主のゼミ数は少なすぎると思う。
- 7 夜間主と昼間主でゼミの数に開きがありすぎる。他学科のゼミもとらしてほしい。
- 8 昼間のゼミも夜間のゼミも共通で、とりたいゼミをとれるようにできればよいと思う（夜間の学生が昼のゼミをとっても単位に加算できるということです）。
- 9 ゼミに関して学生側が教官を選べるようにして頂きたい。
- 10 前期の単位取得結果を夏休みあけに教えてほしい。
- 11 一年間分の成績発表が4月なのはおかしい。おそすぎると思う。卒年次生以外の成績もすぐに発表してほしい。
- 12 同じ講義にも関わらず、成績評価が毎年（前後期）激変するのはやめてほしい（去年受講した学生の意見・感想が役に立たない為）。

## 5 教師像と成績評価・望ましい教師像の割合の関係

### 5-1 教師像と成績評価の関係

図表2-5-1は、教師像と成績評価の関係を示したものである。この図表で、成績評価を「適切であった」「どちらともいえない」「不適切であった」の3区分にわけて、教師像を昼間コースと夜間主コースで比較しよう。昼間コース（適切40%、どちらでもない42%、不適切18%）、夜間主コース（24%、54%、21%）である。「適切であった」を前年と比較すると、昼間コース（本年40%、前年19%）、夜間主コース（24%、34%）で、昼間コースは21ポイント良くなっているのに対して、夜間主コースは10ポイントも悪くなっている。また「不適切であった」では、昼間コース（本年18%、前年36%）、夜間主コース（21%、16%）であり、昼間コースは18ポイント良くなっているのに対して、夜間主コースは5ポイント悪くなっている。

他方、教師像と成績評価の関係で、その理由の順位の高いものを前年と比較しながら並べてみよう。昼間コースにおいて、成績評価が「適切であった」は、1位「熱心に講義」（本年51%、前年28%）、2位「時間どおりに講義」（42%、29%）、3位「わかりやすい講義」（40%、20%）、4位「学問に対する関心」（37%、16%）である。かかる順位は、前年とほとんど同じである。しかし、ここで注目すべきことは、ほとんどの項目が前年よりも20ポイント位良くなっていることである。また、成績評価が「どちらともいえない」は、1位「時間どおりに講義」（本年50%、前年14%）、2位「わかりやすい講義」（43%、48%）、3位「学問に対する関心」（42%、42%）、4位「熱心に講義」（32%、36%）である。つまり、「時間どおりに講義」は前年より36ポイント高くなっているが、他の項目はほぼ同じである。さらに、成績評価が「不適切であった」は、1位「学問に対する関心」（本年21%、前年42%）、2位「熱心に講義」（17%、36%）、3位「わかりやすい講義」（16%、32%）、4位「時間どおりに講義」（8%、57%）である。つまり、すべての項目が前年より低下しており、そのうちでも「時間どおりに講義」は49ポイントも低くなっている。

夜間主コースにおいても先ほどと同じように並べてみよう。つまり、成績評価が「適切であった」は、1位「熱心に講義」（本年50%、前年42%）、2位「わかりやすい講義」（23%、33%）、3位「学問に対する関心」（22%、31%）である。ここでは、「熱心に講義」は8ポイント良くなっているのに対して、「わかりやすい講義」は10ポイント、「学問に対する関心」は9ポイント悪くなっている。また、成績評価が「どちらともいえない」は、1位「学問に対する関心」（本年63%、前年51%）、2位「わかりやすい講義」（52%、53%）、3位「熱心に講義」（42%、25%）である。つまり、「学問に対する関心」は12ポイント、「熱心に講義」は17ポイント良くなっている。

以上の結果をみると、成績評価の3区分毎の教師像の選択指標は非常に異なっているという興味深い事実が明らかになっている。

### 5-2 教師像と望ましい教師像の割合の関係

図表2-5-2は、教師像と望ましい教師像の割合の関係を示したものである。この図表で、望ましい

教師像の割合を「50%以上」「30%以下」の2区分にわけて、昼間コースと夜間主コースで比較すると、昼間コース（「50%以上」47%、「30%以下」53%）、夜間主コース（47%、53%）であり、両コースとも全く同じである。また、望ましい教師像の割合が「50%以上」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年47%、前年56%）、夜間主コース（47%、62%）で前年より昼間コースでは9ポイント、夜間主コースでは15ポイント悪くなっている。

他方、教師像と望ましい教師像の割合の関係で、その理由の順位の高いものを前年と比較しながら並べてみよう。つまり、昼間コースでは望ましい教師像の割合が「50%以上」の理由は、1位「時間どおりに講義」（本年54%、前年57%）、2位「熱心に講義」（53%、65%）、3位「わかりやすい講義」（50%、55%）、4位「学問に対する関心」（41%、54%）である。かかる順位は前年とほぼ同じ順位であるが、しかし、すべての項目で前年よりも悪くなっている。また、夜間主コースについても先ほどと同じように比較してみよう。「50%以上」の理由では、1位「熱心に講義」（本年67%、前年75%）、2位「時間どおりに講義」（50%、50%）、3位「わかりやすい講義」（48%、61%）、4位「学問に対する関心」（40%、63%）である。つまり、かかる項目のほとんどが前年よりも悪くなり、特に「学問に対する関心」は23ポイントも低下している。

## 6 学科別の成績評価・ゼミナール所属

### 6-1 学科別の成績評価

図表2-6-1は、学科別の成績評価を示したものである。この図表で、成績評価を「適切であった」「どちらともいえない」「不適切であった」の3区分にわけて、成績評価の適切さを昼間コースと夜間主コースで比較すると、昼間コース（適切39%、どちらでもない42%、不適切19%）、夜間主コース（24%、55%、21%）である。成績評価が「適切であった」を前年と比較すると、昼間コース（本年39%、前年41%）、夜間主コース（24%、35%）で前年よりも悪くなっている。

他方、成績評価を学科別に比較すると、昼間コースでは、経済学科（適切34%、どちらでもない47%、不適切19%）、商学科（37%、40%、23%）、企業法学科（41%、43%、16%）、社会情報学科（44%、42%、14%）である。また成績評価が「適切であった」を前年と比較すると、経済学科（本年34%、前年42%）、商学科（37%、42%）、企業法学科（41%、36%）、社会情報学科（44%、48%）である。前年との比較では、企業法学科が5ポイント良くなっているのに対して、他の学科は悪くなっている。また、夜間主コースにおいても、先ほどと同じように比較してみよう。つまり、経済学科（適切11%、どちらでもない68%、不適切21%）、商学科（32%、48%、20%）、企業法学科（24%、48%、28%）、社会情報学科（23%、60%、17%）である。また、成績評価が「適切であった」を前年と比較すると、経済学科（本年11%、前年16%）、商学科（32%、42%）、企業法学科（24%、32%）、社会情報学科（23%、36%）である。ここで前年との比較では、経済学科は10%台と非常に悪く、また、他の学科も10ポイント位悪くなっており、特に社会情報学科は13ポイントも低下している。

## 6-2 学科別のゼミナール所属状況

図表2-6-2は、学科別のゼミナール所属の状況を示したものである。この図表で、「ゼミ所属」「ノンゼミ」の2区分にわけて、昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（所属95%、ノンゼミ5%）、夜間主コース（82%、18%）である。「ゼミ所属」を前年と比較すると、昼間コース（本年95%、前年96%）、夜間主コース（82%、88%）である。つまり、「ゼミ所属」は昼間コースで90%台、夜間主コースで80%台であり、どちらも前年より少し低下している。

他方、昼間コースにおいて、ゼミ所属の高い方から前年と比較しながら並べてみよう。つまり、企業法学科（本年97%、前年97%）、商学科（96%、99%）、経済学科（94%、90%）、社会情報学科（91%、93%）である。また、夜間主コースでも同じように並べてみると、企業法学科（本年93%、前年69%）、商学科（90%、95%）、経済学科（87%、67%）、社会情報学科（22%、94%）である。つまり、両コースともゼミ所属の一番高いのは企業法学科、一番低いのは社会情報学科である。

ここで注目すべきことは、ゼミ所属で夜間主コースが低くなっており、また、学科別では社会情報学科は低くなっているが、その理由を検討する必要があるであろう。

## 6-3 学科別のゼミナールの満足度

図表2-6-3は、学科別のゼミナールの満足度を示したものである。この図表で、「満足している」「どちらともいえない」「不満である」の3区分にわけて、昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（満足62%、どちらでもない29%、不満9%）、夜間主コース（51%、37%、12%）である。ゼミに「満足している」を前年と比較すると、昼間コース（本年62%、前年70%）、夜間主コース（51%、48%）である。ゼミの満足度は、夜間主コースで50%台と非常に低く、また、前年と比較しても昼間コースで8ポイントも悪化している。

他方、ゼミの満足度を学科別に比較して、満足度の高い方から前年と比較しながら並べてみよう。つまり、昼間コースでは、商学科（本年64%、前年70%）、社会情報学科（62%、66%）、経済学科（61%、68%）、企業法学科（59%、73%）である。ゼミの満足度は、すべての学科で前年より悪化しており、特に企業法学科では14ポイントも低下している。また、夜間主コースについてもゼミの満足度の高い方から並べてみると、商学科（本年66%、前年50%）、社会情報学科（50%、47%）、経済学科（33%、25%）、企業法学科（27%、56%）で、この順位は昼間コースと全く同じである。また、ゼミの満足度は、学科毎に著しく差があり、経済学科で8ポイント良くなっているのに対して、企業法学科は19ポイントも悪くなっている。

以上の結果をみると、ゼミで「満足している」は昼間コースで62%、夜間主コースで51%、また、学科毎にみても予想していたよりも厳しい評価である。その理由は、すでに3-4-4ゼミナールの満足・不満足の原因（自由記載）（p.77参照）にあるので、各教官は学生の意見を参照してゼミの満足度を上げるように努力してもらいたい。



## 第2節 個別型調査結果

学生アンケート（個別型）は、各質問項目別に度数分布図表（巻末に資料-2として添付）を作成している。しかし、図表の数量的な資料だけでは、十分に理解することができないところもあるので、各質問項目別にできるだけ資料に忠実にコメントを付けることにしている。また、学生の意見は、コメントや図表の理解を深めるために本文中に記載している。

図表の作成にあたって、個別型では、大分類として昼間コースと夜間主コース（コース別）、中分類として講義科目、語学科目そして実技科目（科目別）、さらに細分類として講義科目を商学科、企業法学科、社会情報学科、一般教育および言語センター（学科等別）に区分している。このように区分すると、各教官の学生アンケート調査結果は、学科等別、科目別およびコース別の調査結果と比較することができるという利点がある。なお、講義科目の学科等別への区分は、各授業科目の学科所属を基準にしている。また、紙面の関係で、特に限定しない限り、ここでは昼間コースを中心に論じていることをお許し願いたい。

なお、経済学科は、本年度も学科独自のアンケート用紙を使用しているため、これを別項目として取扱うことしたい。

### 1 学生アンケート調査の実施状況と学年別構成

#### 1-1 学生アンケート調査の実施状況

図表3-1-1は、講義・語学科目における学生アンケート調査の実施状況を示したものである。この図表で、前年と比較しながらみてみよう。実施率では昼間コース（本年74%、前年81%）、夜間主コース（68%、78%）と前年より低くなっている。また、実施率の高い順に並べてみると、言語センター（本年81%、前年81%）、企業法学科（77%、91%）、商学科（67%、81%）、一般教育（66%、84%）、社会情報学科（63%、70%）である。つまり、実施率は、商学科、一般教育そして社会情報学科では60%台と非常に低く、また、前年と比較しても著しく低下している。

他方、回収率を前年と比較しながらみてみよう。回収率は昼間コース（本年24%、前年28%）、夜間主コース（30%、40%）で前年より低くなっている。また、回収率の高い順に並べてみると、言語センター（本年58%、前年53%）、社会情報学科（20%、31%）、一般教育（18%、25%）、商学科（17%、23%）、企業法学科（16%、20%）である。つまり、回収率は、言語センターを除いてすべて低下し、10%台と著しく低くなっている。

学生アンケート調査は、原則としてすべての教官が実施することになっている。しかし、実施率および回収率が上記のように低くなっている。言語センターでは回収率（58%）と非常に高くなっているが、この場合、履修意思のない者が少なく、また、出席をとっているという事情があるものと思われる。このような事情を考慮すれば、言語センターでも高い回収率であるとはいえないであろう。さらに、回収率を授業科目別にみると、例えば、前年において、A科目 回収率 8%（履修

者数285、回収数23)、B科目回収率 9% (履修者数598、回収数31)、C科目回収率 9% (履修者数265、回収数24)、D科目回収率 13% (履修者数534、回収数70)、E科目回収率 13% (履修者数292、回収数38) である。

以上のような結果をみると、学生アンケート調査の実施・回収方法を再検討する必要があるが、それにもまして、各教官が学生アンケート調査の意味を再認識し、実施率および回収率を上げる努力をしてもらいたいものである。

## 1-2 学生アンケート調査の学年別(入学年度別)構成

図表3-1-2は、講義・語学・実技科目における学生アンケート調査の学年別構成を示したものである。この図表で、学年別構成を昼間コースと夜間主コースを比較すると、講義科目の昼間コース(1年45%、2年26%、3年20%、4年8%)、夜間主コース(31%、23%、27%、14%)である。つまり、昼間コースは、1年(45%)が主であり、次は2年(26%)、3年(20%)であるのに対して、夜間主コースは1年(31%)、2年(23%)、3年(27%)と分散している。ちなみに、前年は、昼間コース(1年43%、2年20%、3年31%、4年4%)、夜間主コース(31%、23%、31%、11%)である。つまり、1年(43%)が主であり、次が3年(31%)、2年(20%)である。また、語学科目と実技科目についても、先ほどと同じように学年別に比較すると、語学科目の昼間コース(1年50%、2年39%、3年7%、4年4%)、夜間主コース(61%、34%、4%、1%)である。実技科目の昼間コース(62%、35%、4%、0%)、夜間主コース(100%、0%、0%、0%)である。つまり、両科目とも昼間コースは1年(語学50%、実技62%)が過半数を超えており、次は2年(39%、35%)である。夜間主コースもこれとほぼ同じで、1年(61%、100%)で一番多く、次は2年(34%、0%)である。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科(1年21%、2年41%、3年23%、4年13%)、企業法学科(17%、23%、48%、11%)、社会情報学科(47%、23%、21%、7%)、一般教育(64%、21%、10%、4%)である。つまり、商学科は2年(41%)で一番多く、次は3年(23%)、1年(21%)である。企業法学科は3年(48%)で一番多く、次は2年(23%)、1年(17%)である。社会情報学科は1年(47%)で一番多く、次は2年(23%)、3年(21%)である。そして一般教育は1年(64%)で一番多く、次は2年(21%)である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、学生アンケート調査の学年別構成を前年と比較しながらみると、昼間コースでは、講義科目は1年(本年45%、前年43%)、2年(26%、20%)、3年(20%、31%)と比較的分散している。語学科目は1年(50%、55%)、2年(39%、36%)、実技科目は1年(62%、72%)、2年(35%、26%)と1年に集中している。他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科は2年(本年41%、前年26%)、企業法学科は3年(48%、49%)、社会情報学科は1年(47%、29%)、一般教育は1年(64%、78%)に比較的集中している。このような学生アンケート調査の学年別構成は、アンケート調査結果に大きな影響を及していることに注意していただきたい。

## 2 講義の選択理由

図表3-2は、講義・語学・実技科目における講義の選択理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースを科目別に、講義の選択理由の割合の高い順に並べてみよう。昼間コースでは、講義科目は1位「シラバスを読み興味」(34%)、2位「必修・選択必修科目」(29%)、3位「時間割の関係」(20%)である。語学科目では1位「必修・選択必修科目」(82%)、2位「シラバスを読み興味」(11%)、実技科目は1位「シラバスを読み興味」(65%)、2位「時間割の関係」(16%)である。また、夜間主コースについてもほぼ同じような傾向を示している。しかし、講義科目については少し異なっているところがある。つまり、1位「シラバスを読み興味」(28%)、2位「必修・選択必修科目」と「専門の勉強」(24%)、4位「時間割の関係」(22%)である。

他方、昼間コースを学科等別にみることにしよう。商学科と企業法学科は同じ順位で、1位「必修・選択必修科目」(本年38%、前年40%)、2位「専門の勉強」(30%、35%)、3位「シラバスを読み興味」(20%、15%)である。社会情報学科は1位「必修・選択必修科目」(37%)、2位「時間割の関係」(23%)、3位「シラバスを読み興味」(21%)である。一般教育は1位「シラバスを読み興味」(54%)、2位「時間割の関係」(26%)、3位「必修・選択必修科目」(15%)である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義の選択理由を前年と比較しながら順位の高いものから並べてみると、昼間コースでは、語学科目は「必修・選択必修科目」(本年82%、前年81%)、実技科目は「シラバスを読み興味」(65%、63%)、講義科目は「シラバスを読み興味」(34%、29%)、「必修・選択必修科目」(29%、34%)、「時間割の関係」(20%、16%)である。他方、昼間コースを学科等別にみると、商学科は「必修・選択必修科目」(本年38%、前年43%)、「専門の勉強」(30%、29%)、企業法学科は「必修・選択必修科目」(40%、41%)、「専門の勉強」(35%、33%)、社会情報学科は「必修・選択必修科目」(37%、47%)、「時間割の関係」(23%、9%)、「シラバスを読み興味」(21%、21%)である。一般教育は「シラバスを読み興味」(54%、54%)、「時間割の関係」(26%、28%)である。

講義の選択理由「その他」は自由記載になっている。そのなかで勉学に対する積極的な意見をあらわしたものとして、「専門の勉強をするうえであらゆる基礎知識を身につけたかったから」がある。また「単位がとりやすそうだった」は、多数の学生があげている意見であり、また、現在の学生の率直な気持でもあると思われるので、平成12年度の学生アンケートではこの質問項目を追加することになっている。

講義の選択理由「その他」のいくつかを示すと、次のようになる。

### 講義科目

#### ○昼間コース

- 1 謙虚な先生でハートが伝わってくる人だったから。
- 2 面白そうな変わった先生だった。

- 3 先輩に「良い授業だ」と聞いたので。
- 4 先輩たちの話を聞いて興味を持っているため。
- 5 先生がクラスの雰囲気作りにつとめてくれたのでとてもなごやかでした。
- 6 オリエンテーションを開いて興味を持ったため。
- \*7 論文の書き方を学びたかった。
- 8 知っていて損はしないことだから。
- 9 1年生の時から受講したいと思っていたし、資格がほしかったから。
- 10 大学の講義で理論的な意見を考え、言えるようになるため。
- 11 公務員試験を受けるので、少しは訳に立つかなと思ったため。
- \*12 出席とレポートだけなら私にも単位が取れそうだったから。
- 13 単位がとりやすいとの話だった。
- 14 選択していないが見学させて頂いています。

#### ○夜間主コース

- 1 以前先生の講義を受講しもう1度受けてみたいと考えていたから。
- 2 コンピューターの使い方を学びたかった為。
- 3 金融機関への就職を希望したため。しかも内定したため。
- 4 単位取りやすそうだったから。

### 語 学 科 目

#### ○昼間コース

- 1 英会話でかつ外国人講師であったため。
- 2 部活の先輩にすすめられた。
- 3 親の進めで。シラバスは役に立たなかった。
- 4 大学に入る以前からロシア語を勉強してみたかったから。
- 5 がんばってもっと身につけた方がよい。
- \*6 いちばん簡単そうだったから（語学の中で）。
- 7 テストの点さえ良ければ授業に出席しなくてもいいという態度。
- 8 強制選択させられた。

### 3 学生の学習態度

#### 3-1 講義への出席状況

図表3-3-1は、講義・語学・実技科目における学生の出席状況を示したものである。この図表で、講義への出席率「80%以上」と「50%以下」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較する

と、昼間コース（「80%以上」88%、「50%以下」12%）、夜間主コース（87%、13%）である。つまり、両コースともほぼ同じであり、出席率「80%以上」は87.8%と非常に高くなっている。また、昼間コースを科目別に比較すると、講義科目（「80%以上」84%、「50%以下」16%）、語学科目（95%、5%）、実技科目（98%、2%）である。つまり、科目別にみても、特に語学科目と実技科目は出席率「80%以上」が90%以上と非常に高くなっている。他方、昼間コースを学科等別に比較して出席率「80%以上」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（74%）、商学科（67%）、社会情報学科（55%）、一般教育（17%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義への出席率「80%以上」を前年と比較しながら順位の高いものから並べてみると、昼間コース（本年88%、前年82%）、夜間主コース（87%、82%）と両コースとも非常に高くなっている。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年84%、前年77%）、語学科目（95%、93%）、実技科目（98%、97%）で非常に高くなっている。他方、昼間コースを学科等別に前年と比較しながら、出席率「80%以上」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年74%、前年78%）、商学科（67%、77%）、社会情報学科（55%、70%）、一般教育（17%、83%）である。ここで注意すべきことは、社会情報学科で15ポイント、特に一般教育で65ポイントの異常な低下を見せていることである。

さて、語学科目や実技科目は出席をとることが多いので、出席率が高いのは理解できる。しかし、講義科目でこのような高い出席率を示しているのは、教官の実感とはかけ離れているように思われる。しかし、学生アンケートは、その実施時に出席した者が回答し提出したものと考えることができるならば、このような高い出席率になったことも理解できるであろう。ここでは、出席率を単純に比較しているが、これは、アンケートの実施率や回収率と相互依存関係にあることを付記しておきたい。

### 3-2 授業の欠席理由

図表3-3-2は、講義・語学・実技科目における授業の欠席理由を示したものである。この図表で、昼間コースと夜間主コースで、「欠席理由」の割合の高い順に並べてみよう。つまり、1位と2位は両コースとも同じで、1位「自己の怠惰」（昼間42%、夜間主43%）、2位「病気」（32%、29%）とほとんど同じである。3位は昼間コースでは「サークル活動」（18%）、夜間主コースでは「アルバイト」（17%）である。また、昼間コースの科目別についても同じように「欠席理由」の割合の高い順に並べてみよう。つまり、講義科目では1位「自己の怠惰」（47%）、2位「病気」（26%）、3位「サークル活動」（18%）である。それに対して、語学科目と実技科目は全く同じ順位である。つまり、1位「病気」（昼間41%、夜間主51%）、2位「自己の怠惰」（35%、26%）、3位「サークル活動」（19%、17%）である。

他方、昼間コースを学科等別に比較して、「欠席理由」の割合の高い順に並べてみると、数値は少し違っているが順位は全く同じであることがわかる。つまり、1位「自己の怠惰」（商学55%、企

業法52%、社情50%、一般40%)、2位「病氣」(20%、26%、25%、30%)、3位「サークル活動」(15%、15%、19%、22%)である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、授業の「欠席理由」を前年と比較しながら順位の高いものから並べてみると、昼間コースでは「自己の怠惰」(本年42%、前年51%)、「病氣」(32%、27%)、「サークル活動」(18%、16%)、夜間主コースでは「自己の怠惰」(43%、60%)、「病氣」(29%、18%)、「アルバイト」(17%、15%)である。ここで注意すべきことは、「自己の怠惰」は昼間コースで9ポイント、夜間主コースで17ポイント良くなっていることである。また、昼間コースで科目別に比較してみよう。講義科目では「自己の怠惰」(本年47%、前年58%)、「病氣」(26%、20%)、「サークル活動」(18%、16%)である。この傾向は昼間コースを学科等別にみても同じである。他方、語学科目と実技科目は、全く同じ傾向を示している。つまり、語学科目では「病氣」(本年41%、前年46%)、「自己の怠惰」(35%、34%)、「サークル活動」(19%、16%)である。また、実技科目では「病氣」(本年51%、前年34%)、「自己の怠惰」(26%、32%)、「サークル活動」(17%、29%)である。

欠席理由「その他」は自由記載になっている。その欠席理由の多くは自己都合のものであるが、教官の側にも問題があるとの指摘もある。例えば、「出席の必要性が感じられなかった」「授業内容が不満であった」「興味をひく授業ではなかったの」である。

欠席理由「その他」のいくつかを示すと、次のようになる。

## 講義科目

### ○昼間コース

- 1 必要を感じなかったため。
- 2 授業に出ても全く意味がないため。ひどすぎる。
- 3 先生の講義が自分にとって無駄だと思ったため。
- 4 興味を失う講義だったため。
- 5 あまりにも、わからない授業をするので。
- 6 自分にとってどう役立つかわからない。面白くない。
- \*7 先生が自分の授業より大事なことがあるなら、でなくてもいいといったから。
- 8 ボランティア活動のため。
- 9 ゼミとサークルとボランティアに時間を取られてしまった。
- 10 インナーゼミナール大会で忙しかったため。
- 11 他の講義のレポートを作るためや部活動のため。
- 12 就職活動、研修、および卒業論文制作のため公務員試験準備のため。
- 13 自動車学校に行ったため。
- 14 TOEFL受験のため。

- 15 家庭の事情。
- 16 外国から友達が遊びに来たため。
- 17 一講目のため、冬は厳しかった。
- 18 寝坊と、免許の手稲の学科のため。

#### ○夜間主コース

- 1 必要を感じなかったため。
- 2 おもしろくないから、先生が嫌い。
- 3 実際、あまり興味の出る授業じゃなかった。
- 4 出席してもわからないから、難しいので。
- 5 周りの人達のおしゃべりが五月蠅くて、出席する気になれなかった。
- 6 ゼミの活動、実習実験があったため。
- 7 残業などのため。
- 8 仕事が忙しいため。
- 9 子供がいて主人が仕事から帰ってくるのが遅いことがたまにあるので。

### 3-3 学生の学習態度

図表3-3-3は、講義・語学・実技科目における学生の学習態度を示したものである。この図表によると、講義・語学・実技科目で学生の学習態度が非常に異なっている。学習態度で「熱心であった」「熱心でなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（熱心45%、不熱心20%）、夜間主コース（46%、16%）である。つまり、両コースともほぼ同じ傾向を示し、「熱心であった」は40%台である。また、昼間コースを科目別に比較すると、講義科目（熱心42%、不熱心23%）、語学科目（48%、15%）、実技科目（76%、6%）である。つまり、講義科目（42%）と語学科目（48%）はほぼ同じ傾向を示し、「熱心であった」は40%台であるのに対して、実技科目は76%と非常に高くなっている。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科（熱心49%、不熱心13%）、企業法学科（55%、17%）、社会情報学科（31%、31%）、一般教育（38%、26%）である。つまり、「熱心であった」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（55%）、商学科（49%）、一般教育（38%）、社会情報学科（31%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、学生の学習態度で「熱心であった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年45%、前年39%）、夜間主コース（46%、45%）である。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年42%、前年36%）、語学科目（48%、47%）、実技科目（76%、70%）である。つまり、講義科目（42%）と語学科目（48%）はほぼ同じ傾向を示し、「熱心であった」は40%台であるのに対して、実技科目は76%と非常に高くなっている。他方、

昼間コースを学科等別に「熱心であった」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年55%、前年51%）、商学科（49%、39%）、一般教育（38%、25%）、社会情報学科（31%、36%）である。つまり、商学科で10ポイント、一般教育で13ポイント高くなっている。

### 3-4 学生の学習態度で改善すべき点（自由記載）

学生の学習態度で改善すべき点のなかには、学生と教官に対するものが含まれている。

学生の学習態度で改善すべき点を科目別に示すと、次のようになる。

#### 講義科目

##### ○昼間コース

- 1 学生の学習態度は先生次第でかわる。
- 2 授業がつまらないので、こっちのやる気が空回りした。
- 3 学ぶ姿勢が欲しい。
- 4 向学心を持つべきだ。大学で学びたい事を追求する。
- \*5 Be more active students! Speak to more people.
- 6 もっと積極的に講義に出席すべき。
- 7 一部の人だけでなく学生参加型に積極的になるべき。
- 8 積極的に授業の中身に参加していく姿勢をとること。
- 9 講師の問いかけには答えるべきである。
- 10 授業に出席しないで何とかしようとする点。
- 11 出席を取らないといって授業をおろそかにすべきでないと思う。
- \*12 授業に出るなら私語はしない、出来ないなら授業に出ない。
- 13 他の学生の迷惑になるような私語はつつしむべきです。
- 14 周りがうるさ過ぎる。学生の態度が最悪。
- 15 内容の理解よりも単位取得に重きをおく点。
- 16 友達からノートを借りるといふ横着さを改めさせる。
- \*17 出席を代返ですます人が多い。
- 18 早寝、早起きを心がけるべきだ。

##### ○夜間主コース

- 1 学生に言う前に教授たちの教え方に問題がある人がいるから、そこから始まると思う。
- 2 もっと出席したら先生もやる気が出ておもしろい講義をしてくれたかも。
- 3 いやいや勉強するのではなく、興味のあることを勉強すべき。
- \*4 （学生へ）代返辞めろ。まともに出席するのが馬鹿らしくなる。（先生へ）チェックして下さい。



- 5 一部の学生がいつも出席票を書く時間にくる点。
- 6 無断欠席、中途での退室。
- 7 携帯の電源切れ！さもなくばマナーモードにしてほしい。
- 8 自己判断、とりあえず周りの迷惑を考えよ。

## 語 学 科 目

### ○昼間コース

- 1 学生の態度の前に教官の態度の改善が望まれる。
- 2 学生より担当者の方が考えを変えるべきだ。
- 3 先生はもっと厳しく授業をしてください。
- 4 学生ではなく、もっとおもしろいことを授業でやってほしい。
- 5 もっと積極的に発言できる雰囲気、自ら作っていった方がよい。
- 6 嫌でも、そういう授業だし、興味がなきゃ、聞く気は起こらないと思う。
- \*7 自ら発表できるような機会を作って欲しかった。
- 8 積極的に発言、質問をもっとするべきであった。
- 9 もっと積極的に発言や質問等をすべきだと思う。
- 10 先生が質問しても皆無反応なので先生がかawaiiそうだった。
- 11 受け身の授業でなく自ら学ぶようにする。
- 12 もっと知的なことに興味を持つべきだ。
- 13 自分で選択して履修しているという気持ちを忘れるべきではない。
- 14 単に単位を修得するだけでなく、将来使えるようになりたいという願いをもっとむき出しに  
してもいいのでは発言するときは、解かるにしろ解からないにしろ大きな声で話す。
- 15 宿題や予習をしっかりとくるようにする。
- 16 とりあえず入学する目的が具体的にないことを改善しないとねえ。
- 17 テスト前しか勉強しないつもりなのが、ありありとわかる。
- \*18 代返が多すぎる。他の学生に失礼だ。
- 19 代返の排除・及び出欠確認を早く回す。
- 20 この授業では、出席を取ると、すぐ教室を出て行く男子がいて、目障りだった。
- 21 途中退出をなるべく避ける。最後だけ来るんじゃない！
- 22 出席を取る時までに教室に入れば良いという考えをなくしたほうが良いと思う。
- 23 出席調査後の途中退出がおおい。
- \*24 授業中の飲食は禁止すべき。先生が授業しているのに失礼だと思う。
- 25 携帯電話の電源を事前に切っておく等の受講者側のマナーを改善すべきだ。
- 26 携帯電話の電源を切るとか私語を慎む等のマナーを守ること。

27 遅刻しないこと。寝ないこと。

#### ○夜間主コース

- 1 先生の教え方に問題あり。
- 2 遅刻、授業への無関心。
- 3 学生の勉強不足がひどくて授業が進まずイライラした。
- 4 参加意欲を向上するべき。
- 5 授業中に私語を慎ませる。

### 3-5 授業の予習・復習

図表3-3-5は、講義・語学・実技科目の授業の予習・復習の状況を示したものである。この図表で、授業の予習・復習を「行った」「行わなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースともほぼ同じ傾向を示している。つまり、昼間コース（行った40%、行わない60%）、夜間主コース（42%、58%）である。また、昼間コースを科目別に比較すると、講義科目（行った26%、行わない74%）、語学科目（69%、31%）である。他方、昼間コースを学科等別に比較して、「熱心であった」の割合の高い順に並べてみると、商学科（32%）、社会情報学科（30%）、企業法学科（28%）、一般教育（17%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、授業の予習・復習を「行った」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年40%、前年34%）、夜間主コース（42%、38%）である。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年26%、前年22%）、語学科目（69%、70%）である。他方、昼間コースを学科等別に予習・復習を「行った」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年32%、前年27%）、社会情報学科（30%、27%）企業法学科（28%、28%）、一般教育（17%、13%）である。ここで注目すべきことは、予習・復習を「行った」を前年と比較して、昼間コースと夜間主コース、科目別および講義科目を学科等別にみてもほぼ同じ傾向になっていることである。さらに、本アンケートの回答者で出席率「80%以上」は、講義科目（84%）、語学科目（95%）である。したがって、講義科目（74%）、語学科目（31%）の者は、予習・復習を行わないで授業に出席しているという驚くべき事実が明らかになったのである。講義科目と語学科目とは、授業の性質に大きな違いのあることを認めるとしても、講義科目の教官の講義内容や講義方法にも問題があることを認識してもらいたいものである。

### 3-6 授業の予習・復習をしなかった理由

図表3-3-5では、授業の予習・復習を「行わなかった」者は、昼間コース（60%）、夜間主コース（58%）である。また、昼間コースの科目別では、講義科目（74%）、語学科目（31%）である。そこで、講義・語学科目の授業の予習・復習をしなかった理由を明らかにしようとしたのが、図表3-

3-6である。この図表をみると、全体的にはほぼ同じ傾向にあることがわかる。つまり、この図表で、昼間コースと夜間主コースを科目別に授業の予習・復習をしなかった理由の割合の高い方から並べてみよう。講義科目について、昼間コースと夜間主コースは全く同じ順位である。すなわち、1位「必要を感じなかった」(昼間56%、夜間主48%)、2位「自己の怠惰」(33%、34%)、3位「アルバイト」(4%、10%)である。また、語学科目については、1位「自己の怠惰」(昼間50%、夜間主51%)、2位「必要を感じなかった」(34%、29%)、3位は昼間コースでは「サークル活動」(9%)、夜間主コースでは「アルバイト」(19%)である。

他方、昼間コースを学科等別に授業の予習・復習をしなかった理由の割合の高い方から並べてみると、商学科、企業法学科、社会情報学科、一般教育はほとんど同じ順位である。つまり、1位「必要を感じなかった」(商学51%、企業法43%、社情52%、一般65%)、2位「自己の怠惰」(39%、47%、35%、25%)、3位「サークル活動」と「アルバイト」は3-4%で両項目はそれほど差がないものと思われる。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、授業の予習・復習を「行わなかった」理由を前年と比較しながら順位の高い方から並べてみると、前年と同じ順位であるという興味深い事実が明らかとなっている。すなわち、昼間コースにおける講義科目では「必要を感じなかった」(本年56%、前年55%)、「自己の怠惰」(33%、36%)、「サークル活動」(4%、4%)と「アルバイト」(4%、3%)である。また、語学科目では「自己の怠惰」(本年50%、前年54%)、「必要を感じなかった」(34%、27%)、「サークル活動」(9%、10%)である。他方、昼間コースを学科等別に授業の予習・復習をしなかった理由の割合の高い方から並べてみよう。つまり、1位「必要を感じなかった」(商学科(本年51%、前年49%)、企業法学科(43%、38%)、社会情報学科(52%、52%)、一般教育(65%、70%))、2位「自己の怠惰」(商学科(本年39%、前年43%)、企業法学科(47%、55%)、社会情報学科(35%、38%)、一般教育(25%、22%))である。

また予習・復習をしなかった「その他」の理由を示すと、次のようになる。

## 講義科目

### ○昼間コース

- 1 テキスト指定なし。
- 2 授業に興味を持てなかったから。
- 3 購入したテキスト講義の内容が一致しない部分が多かったため。
- 4 教官が教科書に依っていないので、特に教科書を使って学習しなくてもよいと思ったため。
- 5 学生が授業に参加できない。双方向的でない。
- \*6 予習はどうやって良いか分からなかった。
- 7 だって、してもわかんないもん。授業が…。
- 8 同じ曜日の違う授業の予習で精一杯だった為

- 9 家庭の事情のため（多忙で自分の時間がもてない）。
- 10 仕事をしながらの通学だったため。
- 11 就職活動のため。余裕がなかった。
- 12 自己怠慢もあるが、サークル活動で忙殺されていたこともある。

#### ○夜間主コース

- 1 必要を感じなかった。お金がなく高価であった。
- 2 テキストは特に指定されなかったと思う。
- 3 授業が余り解らなかったから。
- 4 会社残業。
- 5 仕事が忙しく時間がなかった。

### 3-7 テキストの購入

図表3-3-7は、講義科目における学科等別のテキストの購入状況を示したものである。

この図表で、テキストを「購入した」「購入しなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（購入48%、非購入29%）、夜間主コース（47%、26%）である。また、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科（購入54%、非購入30%）、企業法学科（66%、24%）、社会情報学科（40%、32%）、一般教育（41%、30%）である。つまり、「購入した」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（66%、）、商学科（54%、）、一般教育（41%）、社会情報学科（40%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、テキストを「購入した」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年48%、前年47%）、夜間主コース（47%、51%）である。他方、昼間コースを学科等別に「購入した」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年66%、前年69%）、商学科（54%、53%）、一般教育（41%、36%）、社会情報学科（40%、35%）である。すなわち、「購入した」を学科等別にみると、両年ともその順位は全く同じであり、企業法学科と商学科は比較的高いのに対して、一般教育と社会情報学科は低くなっている。それにともない、「その他」の理由では一般教育（本年29%、前年18%）と社会情報学科（28%、27%）は高くなっている。そこで、その理由のなかのいくつかを示すと、次のようになる。

#### 講 義 科 目

##### ○昼間コース

- 1 テキスト指定は一切なし。プリント配布。
- 2 コピーした。
- 3 先輩からもらった。

- 4 去年、この授業を受けた人に貰いました。
- 5 図書館で借りた。
- 6 先輩から借りた。

### 3-8 テキストの有用性

図表3-3-8は、講義科目のテキストの有用性を示したものである。この図表で、テキストが「役に立った」「役に立たなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（役に立った44%、役に立たなかった13%）、夜間主コース（48%、11%）である。つまり、テキストの有用性については、両コースとも同じ傾向にあり、「役に立った」が40%台、「どちらともいえない」も40%台である。他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科（役に立った41%、役に立たなかった11%）、企業法学科（57%、9%）、社会情報学科（36%、17%）、一般教育（39%、15%）である。つまり、テキストが「役に立った」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（57%）、商学科（41%）、一般教育（39%）、社会情報学科（36%）である。それにともない、「どちらともいえない」がいずれも40%台と非常に高くなっている。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、テキストが「役に立った」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年44%、前年45%）、夜間主コース（48%、47%）とほとんど同じ傾向を示している。また、昼間コースを学科等別に比較して、テキストの有用性の高い順に並べてみると、企業法学科（本年57%、前年56%）、商学科（41%、51%）、一般教育（38%、34%）、社会情報学科（36%、40%）である。ここで注意すべきことは、テキストが「役に立った」の低い学科は「どちらともいえない」が40%台と非常に高いことである。この点は、詳細に分析して改善すべきことであろう。そのためには、まず質問項目を、例えば「テキストの役に立たなかった理由」を具体的に記載するように改訂する必要があるであろう。

## 4 講義の満足度

### 4-1 講義の総合的満足度

図表3-4-1は、講義・語学・実技科目における講義の総合的満足度を示したものである。この図表で、講義に「満足できた」「どちらともいえない」「不満であった」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（満足57%、どちらでもない31%、不満12%）、夜間主コース（54%、32%、14%）である。つまり、講義の満足度は、両コースともほぼ同じ程度であり、「満足できた」は50%台、「どちらともいえない」30%台、そして、「不満であった」は10%台である。また、講義に「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、そこには少し差があることがわかる。つまり、講義科目では昼間コース（満足56%、不満13%）、夜間主コース（52%、16%）、語学科目では昼間コース（59%、11%）、夜間主コース（59%、11%）、実技科目では昼間コース（71%、7%）、夜間主コース（55%、6%）である。すな

わち、講義に「満足できた」では、講義科目と語学科目は両コースとも50%台であるのに対して、実技科目とは大きな差がある。

他方、昼間コースを学科等別に比較してみよう。講義に「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、商学科（満足69%、不満5%）、企業法学科（65%、12%）、社会情報学科（42%、18%）、一般教育（53%、14%）である。つまり、講義の満足度の高い順に並べてみると、商学科（69%）、企業法学科（65%）、一般教育（53%）、社会情報学科（42%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義に「満足できた」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年57%、前年53%）、夜間主コース（54%、55%）であり、両コースとも50%台である。また、科目別にみると、講義科目と語学科目は両コースともほぼ同じ程度の満足度である。つまり、講義科目では昼間コース（本年56%、前年49%）、夜間主コース（52%、54%）、語学科目では昼間コース（59%、61%）、夜間主コース（59%、57%）、実技科目では昼間コース（71%、72%）、夜間主コース（55%、85%）である。

他方、昼間コースを学科等別に比較して、講義の満足度の高い順に並べてみると、商学科（本年69%、前年59%）、企業法学科（65%、61%）、一般教育（53%、39%）、社会情報学科（42%、44%）である。つまり、前年との比較では商学科10ポイント、一般教育は14ポイント高くなり、これは著しい改善とみることができよう。また、夜間主コースについてみると、商学科（本年71%、前年60%）、企業法学科（60%、56%）、社会情報学科（48%、45%）、一般教育（43%、61%）である。つまり、前年との比較で著しい特徴は、商学科では11ポイント高くなっているのに対して、一般教育では18ポイントも低くなっていることである。そして、この原因がどこにあるかについて、次の講義の「良い点」と「良くなかった点」を手がかりにして検討したい。

#### 4-2 講義の良い点（複数選択回答可）

図表3-4-2は、講義・語学科目の講義の良い点を複数選択回答で尋ねたものである。この図表で、講義の良い点について昼間コースと夜間主コースの順位をみると、両コースは全く同じである。つまり、1位「まじめに講義」（昼間36%、夜間主39%）、2位「知的関心を高めてくれた」（28%、29%）、3位「わかりやすい講義」（23%、21%）である。また、昼間コースで講義科目と語学科目の順位をみると、1位「まじめに講義」（講義35%、語学38%）であるが、2位は講義科目では「知的関心を高めてくれた」（29%）、語学科目では「わかりやすい講義」（26%）、3位は講義科目では「わかりやすい講義」（21%）、語学科目では「知的関心を高めてくれた」（25%）である。つまり、両科目間にはそれほど差がないことがわかる。

他方、昼間コースを学科等別に比較して、講義の良い点の割合の高い順に並べてみると、商学科と企業法学科は全く同じ順位である。つまり、1位「まじめに講義」（商学37%、企業法35%）、2位「わかりやすい講義」（27%、25%）、3位「知的関心を高めてくれた」（24%、24%）である。社会

情報学科では1位「まじめに講義」(43%)、2位「知的関心を高めてくれた」(31%)、3位「わかりやすい講義」(19%)である。また、一般教育では1位「まじめに講義」と「知的関心を高めてくれた」(33%)、3位「わかりやすい講義」(17%)である。ここで注意すべきことは、「まじめに講義」が各学科とも一番高くなっており、そのなかでも社会情報学科(43%)が一番高くなっている。また、社会情報学科と一般教育は「知的関心を高めてくれた」(31%、33%)では高い評価を受けているのに対して、「わかりやすい講義」(19%、17%)では低い評価になっている。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義の良い点を前年と比較しながらみてみよう。昼間コースでは「まじめに講義」(本年36%、前年18%)、「知的関心を高めてくれた」(28%、46%)、「わかりやすい講義」(23%、39%)である。すなわち、前年との比較では、そこには著しい相違があることがわかる。「まじめに講義」では18ポイントも高くなっているのに対して、「知的関心を高めてくれた」では18ポイント、「わかりやすい講義」で16ポイントも低下していることである。また、夜間主コースについてもほとんど同じ傾向がみられる。つまり、夜間主コースでは「まじめに講義」(本年39%、前年13%)、「知的関心を高めてくれた」(29%、49%)、「わかりやすい講義」(21%、47%)である。すなわち、前年との比較では、そこには著しい相違があることがわかる。「まじめに講義」では26ポイントも高くなっているのに対して、「知的関心を高めてくれた」では20ポイント、「わかりやすい講義」で26ポイントも低下していることである。

ここで興味ある点は、「まじめに講義」の項目であり、これを前年と比較してみよう。まずコース別にみると、昼間コース(本年36%、前年18%)、夜間主コース(39%、13%)であり、前年より著しく高くなっている。また、昼間コースを科目別にみても同じである。つまり、講義科目(本年35%、前年2%)、語学科目(38%、67%)である。このように、「まじめに講義」は、講義科目では前年と比較して33ポイントも高くなっているのに対して、語学科目では29ポイント低下している。この点は詳細に分析する必要があるであろう。

また、講義の良い点「その他」の学生意見は自由記載になっている。そのうちのいくつかを例示すると、次のようになる。

## 講義科目

### ○昼間コース

- 1 先生の人柄が良かった。
- 2 生徒主体の授業だった。
- 3 大学の授業にしては珍しく、生徒の気持ちに立って物事を考えてくれてそれが良かった。
- 4 タイムリーな話題に詳しくなった。
- 5 実際の社会生活で役立ちそうな情報を得られた。
- 6 テキストのみならず他の関連することにも関連した話をしていただいた点。
- 7 いろいろな人の授業を見ることができて、おもしろかったです。

- 8 ほどよく進んで、ほどよく休むところ。ゆっくり始って、早く終わるところ。
- \*9 テストがないこと。
- 10 出席さえしてれば良かったので。

#### ○夜間主コース

- 1 先生のキャラクターがよかった。
- 2 非常に親切、丁寧でとてもわかりやすかった。
- 3 解るまで丁寧に指導してくださいました。
- 4 疑問に的確な答えがもらえた。
- 5 授業のテンポがよく、時間が過ぎるのが早く感じられた。
- 6 板書、OHP、口頭による説明、どれもわかりやすかった。
- 7 プリント+説明が良かった。
- 8 レポートに毎回きちんと評価してくれた。

### 語 学 科 目

#### ○昼間コース

- 1 人柄が面白かった。
- 2 学生の一人一人をよく理解してくれました。
- 3 非常に熱心さが伝わってきて、やる気がUPしました。
- 4 授業以外の先生の話がおもしろかった。社会の話とかが興味深かった。
- 5 英語の授業が面白いと初めて感じた。
- \*6 英語の文章を読むための様々な方法を教えてもらい役に立った。
- 7 長文の読み取り方がよく分かった。
- 8 文学作品の取り組み方に役立った。
- 9 表現の細かい違い等を丁寧に教えてくれた。
- 10 普段気にもとめなかった事を深く教えてくれた。
- 11 単なる英語の学習だけではなく、興味深い内容だった。
- 12 文化的差異に対する関心を高めてくれたこと。

#### ○夜間主コース

- 1 アメリカの新聞を使って、違う文化に触れながら英語の授業が出来た。
- 2 私達の意見などを積極的に聞いてくれたこと（授業に関して）。



#### 4-3 講義の良くなかった点（複数回答可）

図表3-4-3は、講義・語学科目の講義の良くなかった点を複数選択回答で尋ねたものである。この図表で、講義の良くなかった点について昼間コースと夜間主コースの順位をみると、1位「話が単調」（昼間37%、夜間主35%）、2位は昼間コースでは「興味をもたせる工夫が不足」（30%）、夜間主コース「講義がわかりにくい」（33%）、3位は昼間コースでは「講義がわかりにくい」（29%）、夜間主コースでは「興味をもたせる工夫が不足」（29%）である。つまり、昼間コースと夜間主コースでは、2位と3位が入れ替っただけであり、その差は小さいものである。また、講義科目と語学科目について昼間コースと夜間主コースを比較して順位をみると、両コースの順位は全く同じである。つまり、講義科目では1位「話が単調」（昼間35%、夜間主35%）、2位は「講義がわかりにくい」（30%、34%）、3位「興味をもたせる工夫が不足」（29%、28%）である。語学科目では1位「話が単調」（39%、37%）、2位「興味をもたせる工夫が不足」（30%、33%）、3位「講義がわかりにくい」（28%、28%）である。

他方、昼間コースを学科等別に比較して、良くなかった点の割合の高い順に並べてみると、商学科と企業法学科は全く同じ順位である。つまり、1位「話が単調」（商学39%、企業法40%）、2位「興味をもたせる工夫が不足」（33%、29%）、3位「講義がわかりにくい」（25%、28%）である。社会情報学科と一般教育は、その順位はほぼ同じである。つまり、1位「話が単調」（社情36%、一般33%）、2位「講義がわかりにくい」（33%、30%）、3位「興味をもたせる工夫が不足」（27%、30%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義の良くなかった点を前年と比較しながらみてみよう。講義科目については、昼間コースでは「話が単調」（本年35%、前年29%）、「講義がわかりにくい」（30%、30%）、「興味をもたせる工夫が不足」（29%、25%）である。すなはち、「講義がわかりにくい」の他は悪くなっている。夜間主コースでは「話が単調」（本年35%、前年28%）、「興味をもたせる工夫が不足」（34%、24%）、「講義がわかりにくい」（28%、23%）といずれも悪くなっている。また、昼間コースの語学科目について「話が単調」（本年39%、前年33%）、「興味をもたせる工夫が不足」（30%、21%）、「講義がわかりにくい」（28%、11%）とすべて悪くなっており、特に「講義がわかりにくい」は17ポイントも悪化している。他方、昼間コースの学科別等では、商学科と企業法学科は「話が単調」（商学（本年39%、前年27%）、企業法（40%、25%））、「興味をもたせる工夫が不足」（（33%、23%）、（29%、19%））であり、社会情報学科と一般教育は「話が単調」（社情（本年36%、前年31%）、一般（33%、31%））、「講義がわかりにくい」（（33%、34%）、（30%、23%））である。つまり、「話が単調」「興味をもたせる工夫が不足」「講義がわかりにくい」のすべてにおいて前年に比べて悪化している。このような結果をみると、教師の側にも講義の方法について工夫すべきところがあるように思われる。

次は、講義の良くなかった点「その他」の学生意見である。そのうちのいくつかを示す。

## 講義科目

### ○昼間コース

- 1 全くやる気が感じられない。文章を読むだけで、概念の説明がない。
- 2 質問した時の先生が怖い。何か怒っているみたい。
- 3 教官は学生の声に耳をかさない。質問しようとする、”なに?! ” っといっしゅう。
- 4 教科書通りの説明ではなく、教科書をベースにした他の説明をして欲しかった。
- 5 内容をある程度知っていることを前提として授業しているのがつらい。
- 6 先生のくるのが遅い、話の体系がわからない。
- 7 ただ板書するだけの授業だった。説明はしていたが書くのが精いっぱい。
- \*8 去年とほとんど講義が変わらなかった。
- 9 同じことを何週間もやっているようで退屈だった。
- 10 授業の内容が難しい。
- 11 授業量が多かった。
- \*12 科目名と内容が一致しない。
- 13 話している人に注意しない。
- 14 話し方が聞き取りにくかった。
- 15 話し方が早すぎるし、板書が多い。
- 16 先生が早口だったので、もう少しゆっくり話して欲しかった。
- 17 When a teacher write on the blackboard the words are too small for me.
- 18 黒板の字が小さすぎて見づらかった。OHPの使い方もいまいち。
- 19 黒板が汚ない。読みにくい、分かりにくい。
- 20 黒板に字を書くとき、略字はわかりにくいので、やめて欲しかった。
- 21 黒板の下の方の文字が見にくかった。
- 22 板書が体系的でない。英語を使うのはよいが、その語句の説明が不足している。
- 23 板書が少ない。
- 24 板書が多すぎて理解する時間もなかった。
- 25 板書が早すぎる。写しきれない。
- 26 板書が多くて説明をよく聞けなかった。
- 27 板書が読めない。何をしゃべっているのかわからない。
- 28 OHPをかえるのが早すぎて全部書き写せなかった。
- 29 OHP早すぎた。それと先生の話すスピードも超早。
- 30 OHPのシートを変えるのが早すぎて何のことについて言っているのかわからなかった。
- 31 OHPの字が小さく、見づらかった。
- 32 OHPの量が多すぎた。

- 33 ノートの量が多すぎた。要点だけ黒板に書いて欲しかった。
- 34 マイクの雑音がひどかった。
- \*35 いきなりの（急な）休講が多かった。
- 36 休講の知らせもなく、教官が1時間以上来ないことがあった。
- 37 休講を事前に知らせて欲しかった。
- 38 途中で帰る生徒を注意しなかった点。
- 39 出席を毎回取って評価してもらいたかった。
- 40 OHPを使うのは良いが、資料があまり授業向けにまとまっていなかった。また、体系的でなかった。

#### ○夜間主コース

- 1 授業も最悪で毎回不愉快だった。
- 2 非常に圧迫感があり息苦しい講義だった。
- 3 学生にあてたあとその答えについての先生のもの言いがひどい。
- 4 何を言っているのか解らない、説明不足。
- 5 少し専門過ぎて理解できなかった。
- 6 OHPを使うのはいいが、そのことで書く時間がなく、書くだけで終わってしまうこと。
- 7 OHPを書き写すため、文字が多く手が疲れた。プリントにして配布して欲しい。
- 8 OHPを書き写すときスピードが速すぎてついて行けなかった。しかもテキストを買ったらほとんど同じ内容だった。
- 9 OHPを書き写す時間が不十分で、話をほとんど聞けなかった。
- 10 休講の掲示が直前になされることが多く、やる気が減ってしまった。

#### 語 学 科 目

##### ○昼間コース

- 1 教師が役不足、多くの点で生徒にまかせきり。
- 2 自由に発言できる雰囲気になりにくかったと思う。
- 3 学生への熱意が少ない（学生側にも問題があるが）。
- 4 性格がねじまがっている。英語の発音はもっと口を大きくあけてはきはき言うべき、先生は発音のように口をあまり開かずよくようがない。
- 5 テキストが難しすぎた。
- 6 内容が難しすぎた。ついていくのがやっとだった。
- 7 授業方法（コンピュータの使用）が期待はずれだった。
- 8 授業のペースが速過ぎる気がする。

- 9 コンピュータの調整に時間が取られたり、教師の準備不足が目立った。
- 10 宿題が多すぎた。
- 11 小テストが多過ぎる。
- 12 教官の遅刻が多い。

#### ○夜間主コース

- 1 どうサポートしてもやる気のない人もいて、グループとして評価されるのはちょっとつらかった。

## 5 講義の内容

### 5-1 講義内容の体系性

図表3-5-1は、講義・語学科目の講義内容の体系性を示したものである。この図表で、講義内容が「体系的であった」「体系的でなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースはほぼ同じ傾向を示している。つまり、昼間コース（体系的60%、非体系的9%）、夜間主コース（57%、8%）である。また、昼間コースを科目別にみてもしかりである。つまり、講義科目（体系的61%、非体系的9%）、語学科目（57%、11%）である。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科（体系的71%、非体系的3%）、企業法学科（75%、5%）、社会情報学科（59%、7%）、一般教育（55%、9%）である。つまり、講義内容が「体系的であった」と評価されている順に並べてみると、企業法学科（75%）と商学科（71%）は70%台で比較的高いものに対して、社会情報学科（59%）と一般教育（55%）は50%台で低い評価になっている。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義内容の体系性について前年と比較しながらみると、「体系的であった」では昼間コース（本年60%、前年60%）、夜間主コース（57%、57%）と両コースとも全く同じ結果を示している。他方、昼間コースを学科等別に比較して「体系的であった」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年75%、前年71%）、商学科（71%、69%）、社会情報学科（59%、54%）、一般教育（55%、48%）である。つまり、企業法学科と商学科は70%台で比較的高いものに対して、社会情報学科と一般教育は50%台で低い評価になっている。このような結果は、学問の性質によるところもあるかもしれないが、それにしても教官の努力が必要なところも多々あるところであろう。

### 5-2 講義内容の興味深さ

図表3-5-2は、講義・語学科目の講義内容の興味深さを示したものである。この図表で、講義内容に「興味深かった」「興味深くなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースはほぼ同じ傾向を示している。つまり、昼間コース（興味深い59%、興味深くない15%）、夜

間主コース（58%、14%）である。また昼間コースを科目別に比較すると、講義科目（60%、14%）、語学科目（55%、15%）である。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、そこには差があることがわかる。つまり、商学科（興味深い67%、興味深くない9%）、企業法学科（73%、10%）、社会情報学科（48%、21%）、そして一般教育（58%、15%）である。つまり、講義内容が「興味深かった」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（73%）と商学科（67%）は比較的高いものに対して、一般教育（58%）と社会情報学科（48%）の低いのは気にかかるところである。また、「どちらともいえない」は30%近くになっているが、この点をもう少し分析できるよう質問項目を工夫する必要があるだろう。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義内容が「興味深かった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年59%、前年55%）、夜間主コース（58%、59%）でともに50%台でほぼ同じ結果を示している。他方、昼間コースを学科等別に比較して「興味深かった」の割合の高い順に並べてみると、企業法学科（本年73%、前年65%）、商学科（67%、58%）、一般教育（58%、47%）、社会情報学科（48%、52%）である。つまり、企業法学科は8ポイント、商学科は9ポイントそして一般教育は11ポイント高くなっているのに対して、社会情報学科は4ポイント低下している。この点は、社会情報学科が講義の良くなかった項目での「講義がわかりにくい」（33%）と、講義の満足度項目での「講義に満足」（42%）で低い評価になっていることと符合しているように思われる。

### 5-3 講義内容の量的適切さ

図表3-5-3は、講義・語学科目の講義内容の量的適切さを示したものである。この図表で、講義内容が「多すぎた」「適量であった」「少なすぎた」の3区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、そこではほぼ同じであることがわかる。つまり、昼間コース（多い40%、適量57%、少ない3%）、夜間主コース（41%、55%、4%）である。また、昼間コースで講義科目（40%、57%、3%）、語学科目（40%、57%、3%）で全く同じ傾向である。ところが、両科目とも「多すぎた」は40%で非常に高くなっている。しかし、そのうちの「非常に多すぎた」をみると、いずれも11%になっているので、講義内容の量はおおむね適量であると判断することができるであろう。多いか、適量であるかの判断は、個人や科目でその基準が異なるけれども、予想より良い結果であるように思われる。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科（多い30%、適量67%、少ない3%）、企業法学科（42%、56%、2%）、社会情報学科（50%、47%、3%）、一般教育（39%、58%、3%）である。つまり、社会情報学科では「多すぎた」は50%であるが、そのうち「非常に多すぎた」は16%であるので、講義内容の量が問題になるほど多いとはいえないであろう。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義内容が「適量であった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年57%、前年61%）、夜間主コース（55%、65%）で夜間主コースは10ポイントも低下している。他方、昼間コースを学科等別に比較して「適量であった」の割合の

高い順に並べてみると、商学科（本年67%、前年55%）、一般教育（58%、69%）、企業法学科（56%、62%）、社会情報学科（47%、60%）である。つまり、講義内容が「適量であった」の順位は、商学科が高くなって他の学科は低下しているため、本年と前年では全く違った結果になっている。

#### 5-4 教師の講義への新しい動向の取入れ努力

図表3-5-4は、講義科目の教師の講義への新しい動向の取入れ努力を示したものである。この図表で、新しい動向の取入れに「努力していた」「努力していなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、昼間コース（努力していた56%、努力していなかった7%）、夜間主コース（50%、8%）である。他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科（努力していた58%、努力していなかった3%）、企業法学科（58%、6%）、社会情報学科（41%、11%）、一般教育（59%、7%）である。つまり、新しい動向の取入れに「努力していた」の割合の高い順に並べてみると、一般教育（59%）、商学科（58%）、企業法学科（58%）が比較的高いものに対して、社会情報学科（41%）は非常に低くなっている。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、新しい動向の取入れに「努力していた」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年56%、前年51%）、夜間主コース（50%、52%）ではほぼ同じである。また、昼間コースを学科等別に比較して「努力していた」の割合の高い順に並べてみると、一般教育（本年59%、前年45%）、商学科（58%、58%）、企業法学科（58%、58%）、社会情報学科（41%、48%）である。すなわち、一般教育は14ポイント高くなっているのに対して、社会情報学科は7ポイント低下している。また、商学科と企業法学科は両年とも58%と同じになっているのも興味あるところである。

#### 5-5 講義内容と授業計画の整合性

図表3-5-5は、講義・語学科目の講義内容と授業計画の整合性を示したものである。この図表で、講義内容が授業計画に「80%以上沿っていた」「50%以下」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースはほぼ同じ傾向を示している。つまり、昼間コース（「80%以上沿っていた」87%、「50%以下」13%）、夜間主コース（84%、16%）である。また、昼間コースを科目別に比較すると、講義科目と語学科目（87%、13%）で両科目とも全く同じである。

他方、昼間コースを学科等別に比較して、講義内容が授業計画に「80%以上沿っていた」の割合の高い順に並べてみると、商学科（92%）、企業法学科（91%）、社会情報学科（85%）、一般教育（83%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義内容と授業計画の整合性を前年と比較しながらみると、「80%以上沿っていた」では昼間コース（本年87%、前年89%）、夜間主コース（84%、89%）ではほぼ同じ傾向を示している。また、昼間コースを科目別に比較すると、講義科目（本年87%、前年87%）、語学科目（87%、92%）で両科目ともほぼ同じである。他方、昼間コース

を学科等別に比較して、講義内容が授業計画に「80%以上沿っていた」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年92%、前年88%）、企業法学科（91%、93%）、社会情報学科（85%、86%）、一般教育（83%、85%）である。つまり、ここでも前年とほぼ同じ傾向を示している。

さて、講義は授業計画に沿って進めるべきもので、当初、90%以上と予想していたが、意外に低い学科があることが明らかになっている。学生意見で「シラバスにウソを書くな」と指摘されたこともうなずけるところである。講義の進行過程において、授業計画を変更することもありうるので、その時には学生にその変更理由をきちんと説明する必要があるだろう。そうでなければ、講義に対する教官と学生の信頼関係がくずれることもあるので注意したいところである。

## 6 講義の方法

### 6-1 教師の話し方

図表3-6-1は、講義・語学科目の教師の話し方を示したものである。この図表で、話し方が「聞きやすかった」「聞きにくかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースともほぼ同じ傾向を示している。つまり、昼間コース（聞きやすい66%、聞きにくい16%）、夜間主コース（64%、16%）である。また、昼間コースを科目別に比較すると、講義科目（62%、18%）、語学科目（72%、11%）で、語学科目の方が少し高くなっている。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科（聞きやすい81%、聞きにくい6%）、企業法学科（63%、19%）、社会情報学科（49%、24%）、一般教育（59%、21%）である。つまり、講義が「聞きやすかった」の割合の高い順に並べてみると、商学科（81%）、企業法学科（63%）で比較的高いのに対して、一般教育（59%）と社会情報学科（49%）は低くなっている。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、話し方が「聞きやすかった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年66%、前年62%）、夜間主コース（64%、70%）である。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（62%、58%）、語学科目（72%、76%）で、前者は少し高くなり後者は少し低くなっている。他方、昼間コースを学科等別に比較して、講義が「聞きやすかった」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年81%、前年65%）、企業法学科（63%、66%）、一般教育（59%、50%）そして社会情報学科（49%、56%）である。つまり、商学科が16ポイントも高くなっているのに対して、社会情報学科は7ポイントも低下して50%以下になっている。

さて、「聞きやすさ」は、教師の話し方だけでなく、教室の広さやマイクの使い方にもよるので、その点も考慮して改善するよう努力してもらいたいものである。

### 6-2 テキスト・プリントの使い方

図表3-6-2は、講義・語学科目のテキスト・プリントの使い方を示したものである。この図表で、テキスト等の使い方が「適切であった」「不適切であった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースともほぼ同じ傾向を示している。つまり、昼間コース（適切64%、不適

切7%)、夜間主コース(61%、8%)である。また昼間コースを科目別に比較すると、講義科目(59%、8%)、語学科目(74%、4%)で語学科目の方が高くなっている。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、そこには大きな差があることがわかる。つまり、商学科(適切73%、不適切3%)、企業法学科(52%、7%)、社会情報学科(64%、10%)、一般教育(51%、10%)である。つまり、テキスト等の使い方が「適切であった」の割合の高い順に並べてみると、商学科(73%)、社会情報学科(64%)が比較的高くなっているのに対して、企業法学科(52%)と一般教育(51%)は低下している。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、テキスト等の使い方が「適切であった」を前年と比較しながらみると、昼間コース(本年64%、前年63%)、夜間主コース(61%、59%)でほぼ同じ傾向を示している。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目(本年59%、前年60%)、語学科目(74%、72%)でここでもほぼ同じ傾向を示している。他方、昼間コースを学科等別に比較して、「適切であった」の割合の高い順に並べてみると、商学科(本年73%、前年69%)、社会情報学科(64%、63%)が比較的高いものに対して、企業法学科(52%、55%)と一般教育(51%、53%)は低下している。ここでも、各学科毎に同じ傾向を示しており、評価の低い学科は、テキスト・プリントの使い方を工夫して、教育効果をあげるべく努力してもらいたいものである。

テキスト・プリントの使い方についての学生意見を示すと、次のようなものがある。

## 講義科目

### ○昼間コース

- 1 ホームページで授業プリントの解説がみられるので、とても役に立った。
- 2 テキスト・プリントがあったほうが、より理解しやすいのではないのでしょうか。
- 3 教科書が分りにくいので、板書でもっと詳しくやってほしい。
- 4 説明は何度か繰返してほしい。重要なことは板書し、体系はきちんと書いてほしい。
- 5 学生のレベルに準じた講義、テキスト・プリントを使用していただきたい。

### 6-3 黒板・OHP・ビデオ装置等の使い方

図表3-6-3は、講義・語学科目の黒板・OHP・ビデオ装置等の使い方を示したものである。この図表で、黒板等の使い方が「適切であった」「不適切であった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、両コースともほぼ同じ傾向を示している。つまり、昼間コース(適切49%、不適切17%)、夜間主コース(49%、15%)である。また、昼間コースを科目別に比較すると、ここでもほぼ同じ傾向を示している。つまり、講義科目(50%、20%)、語学科目(48%、9%)である。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、そこには大きな差があることがわかる。つまり、商学科(適切62%、不適切11%)、企業法学科(35%、24%)、社会情報学科(52%、21%)、一般教育(48%、24%)である。つまり、黒板等の使い方が「適切であった」の割合の高い順に並べてみる



と、商学科（62%）、社会情報学科（52%）、一般教育（48%）、企業法学科（35%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、黒板等の使い方が「適切であった」を前年と比較しながらみると、昼間コース（本年49%、前年46%）、夜間主コース（49%、48%）ではほぼ同じである。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（50%、45%）、語学科目（48%、48%）で前者は少し高くなっている。他方、昼間コースを学科等別に比較して、黒板等の使い方が「適切であった」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年62%、前年56%）、社会情報学科（52%、49%）、一般教育（48%、40%）、企業法学科（35%、35%）である。つまり、黒板等の使い方は、前年より改善されている。しかし、満足すべき状態でないので、改善が望まれるところである。

黒板等の使い方が「不適切である」である例を示すと、次のようなものがある。

## 講義科目

### ○昼間コース

- 1 黒板に書くならきちんと書いて下さい。時々、学生の様子を見て話して下さい。
- 2 黒板でもう少し要点をまとめてほしい。
- 3 黒板等の使い方が不適切、プリントをもっと使ってほしい。
- 4 黒板を見やすく書いてほしい。分りやすく説明してほしい。
- 5 書くにしても語句の説明をきちんとしてほしい。
- 6 書くので手が一杯だ話が聞けない。もう少しゆっくり進むかプリントを使って。
- 7 OHPは全然見えないし、黒板の使い方はめちゃくちゃ、尻切れトンボ。
- 8 OHPを使いすぎてノートに書写すだけの授業で、意味のない授業だった。
- 9 OHPで見たのをプリントで渡してほしい。

### 6-4 学生の反応に注意しての講義の進め方

図表3-6-4は、講義・語学科目において、教師が学生の反応に注意しての講義の進め方を示したものである。この図表で、学生の反応に「注意を払っていた」「注意を払っていなかった」の2区分にわけて昼間コースと夜間主コースを比較すると、そこには少し差があることがわかる。つまり、昼間コース（注意を払った57%、注意を払っていない13%）、夜間主コース（50%、14%）である。また、昼間コースを科目別に比較すると、そこには大きな差があることがわかる。つまり、講義科目（51%、16%）、語学科目（69%、8%）である。

他方、昼間コースを学科等別に比較すると、商学科（注意を払った55%、注意を払っていない10%）、企業法学科（55%、10%）、社会情報学科（43%、23%）、一般教育（48%、18%）である。つまり、学生の反応に「注意を払っていた」の割合の高い順に並べてみると、商学科（55%）、企業法学科（55%）、一般教育（48%）、社会情報学科（43%）である。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、学生の反応に「注意を払っていた」を前年

と比較しながらみると、昼間コース（本年57%、前年57%）、夜間主コース（50%、49%）でほぼ同じである。また、昼間コースを科目別にみると、講義科目（本年51%、前年52%）、語学科目（69%、72%）で、これまた講義科目の評価が低くなっている。他方、昼間コースを学科等別に比較して、学生の反応に「注意を払っていた」の割合の高い順に並べてみると、商学科（本年55%、前年58%）、企業法学科（55%、55%）、一般教育（48%、55%）、社会情報学科（43%、33%）である。また、全体的にみても、評価が良くても50%台であり、教師が学生の反応に注意して講義を進めるよう心がけるべきであろう。

学生の反応に注意する方法として、例えば、次のようなものがある。

### 講義科目

#### ○昼間コース

- 1 生徒との対話を大切にしていたところがよい。
- 2 学生のことを考えて講義をしてくれた。
- 3 意見票により学生の意見に耳を傾けてくれる点が良かった。
- 4 生徒に質問をしながら楽しい授業である。
- 5 話の内容は具体的で分かり易かった。質問にもきちんと丁寧に誠実に答えてい。
- 6 テストとかレポートを添削してくれるのが良かった。

#### 7 授業等について良い点と改善してほしい点（自由記載）

授業等について良い点と改善してほしい点の学生意見のうちのいくつかを科目別に示すと、次のようである。

### 講義科目

#### ○昼間コース

（良い点）

- 1 大学生活を通して、何を習得すべきかを知ることができてよかったです。
- 2 先生の人柄が出ているようなほのぼのとした授業でよかった。また熱心に生徒の意見を聞いてくれて嬉しかった。
- 3 さすが若い先生という感じがしました。内容も学生を引きつけるものだったと思います。
- 4 いつも楽しみに来ていました。先生のこの授業、好きです。
- 5 何度か意見を出せて良かった。面白かった。もっとディスカッションすれば良かったか。
- 6 生徒にレジュメを作らせて発表させたのは良かった。発表の機会があると勉強するので。
- 7 本当に「教育」について学ぶという授業でとても楽しかったです。各々の意見を話し合い互いに関わりのもてる機会がもっとあると良いと思います。

- \* 8 先生は重要な点について何回も話してくれたし、分かり易かったです。
- 9 先生はとてもやさしくて、授業内容もよく、楽しい授業でした。購入した英英辞典は、自分の勉強の時にも役立っており、英語に対しての興味が更に湧きました。1年間どうもありがとうございました。
- 10 うるさい人を時々注意してくださっていたおかげで、授業はとても聞きやすかった。他の法律の授業と比べて(失礼な話ですが) はるかに面白かった。
- 11 「ずる出席」を防ぐ工夫をしていたところに感心している。他の教官も見習って欲しい。
- 12 英語の授業で理解するのが難しかったが、英語に触れ、他の留学生などの意見も聞けてとてもためになった。
- \* 13 素晴らしい講義でした。興味を持ちました。記帳といい、出す例といい、本当に良かったです。うるさい学生に対して注意していたところも良かったです。この授業は今まで受けてきた講義の中で、一番好きです。ありがとうございました。
- 14 人生において大切なこと、他ではきけないこととお話していただき、ためになりました。気づかされたこともありました。教えていただいたことは忘れません。半年の間でしたが(通年がよかったです) 本当にありがとうございました。
- 15 私は企業法学科の学生です。初め自分には商業なんて無縁だと思い込んでいましたが、この講義を取ったのも正直言って単位のためだけでした。1年間この講義を受けて考え方が解かりました。自分にはこういう道もあり得るなど。私はまだこの1つしか商学科の講義を受けていませんが、これから学科にとらわれずにいろいろなことを学びたいと思います。小樽商大は本当に素晴らしい大学ですね。

(改善を望む点)

- 1 このアンケートがどう利用されてるか、具体的に生徒に教えてほしい。はっきりしゃべってほしい。語尾が小さい。
- 2 やる気が感じられない。学生の責任にしてあまりにいい加減だ。
- 3 教師自身が現状理解及び自己意見を持っていなかった。
- \* 4 教官の機嫌が悪すぎ。
- 5 先生の態度がおかしい。偏見をもっている。
- 6 偏見や差別と取られるような言動が少なからずあった。
- 7 大学の講義にはふさわしくない内容だった。全く論理的ではなかったから。
- 8 学生に対する接し方が悪い。興味を持たせる工夫が足りない。
- 9 学生を小馬鹿にしたような態度。(まあ確かに馬鹿ですけど) 先生2人のうちの一人。
- 10 最後まで相手の話を聞くべきだ。何でも自分の思うとおりにいかないと怒る教官は大嫌いだ。専門科目だし、もっと良い教官がいい。

- 11 もっと学生の立場に立って授業を進めて欲しかった。板書せずプリントを配って説明させたりする工夫があればよかった。ビデオを見せてくれたのは良かったと思う。
- 12 もっと生徒が意見をかわせる場を授業の中に設けてほしい。
- \*13 授業の目的を明確にして欲しい。
- 14 先生がどの講義においても、もう少し明確な目標、目的などをわかりやすく学生に示してほしい。それと、もう少し”教える”技術、工夫等をしてほしいと思います。
- 15 何を教えたいのか解らない。説明がいい加減な時がある。
- 16 あっちこっちに話が飛躍してわかりにくかったので、もっと話の焦点をしぼって。
- 17 思いつきで話すのをやめてほしい。何が結局言いたいのかわからない。黒板がとてもきたないで誤った字はきちんと消したほうが良いと思う。
- \*18 授業と無関係な教科書を購入させられ授業はわかりにくすぎだった。
- 19 授業では教科書を開かなかったのに持ちこみで試験はおかしいと思う。
- 20 教科書の丸読みはやめて欲しい。
- 21 テキストに書いてあることを反復しているようで、授業に出る必然性が感じられない。
- 22 テキストをほとんど使わず、授業と照らし合わせても、どこの部分をやっているのかがぜんぜん解からなかったので何とかして欲しい。
- 23 授業は教科書を先生が読むだけだった。小テストの答えもきちんと解説されず、残念だった。又、テストまでに教科書が終わらないのに、全てがテスト範囲とは、どういうこと。
- 24 もうちょっとわかりやすく説明してほしい。プリントを読むだけでなく。
- 25 黒板に単語を並べているだけなので理解不能だ。
- \*26 同じような話を何度も繰り返している上に、その話が良くわからないしつまらない。
- 27 シラバスの内容や講義名とのくい違いがひどい。
- 28 講義内容が難しく、宿題も難しすぎる、しゃべるのが早かった。
- 29 タイムリーなトピックを取り入れてほしかった。
- 30 I don't wanna do the same one as freshman's classroom!! I wanna do more sophisticated subject.
- 31 1年の時や2年の他の講義でも感じたが、法律科目は、板書をあまりしない教師が多い。専門科目なので、自習が当然なのだが、もう少し板書をまとめてしてもらおうと、更に理解しやすくなるので、考慮してもらいたい。
- 32 授業のペースがはやい。OHPを変えるのがはやい。後ろからだ字が見えなく理解不可能板書が多く書くことで精一杯。理解する時間がない。プリントを用いるべき。
- \*33 授業の資料などをHP上で公開して、授業で使うようにできたら授業が解りやすくなる。
- 34 OHPが見えなかった。ノートを書いているのにOHPを消された。それは非常に不愉快。
- 35 OHPが非常に見づらい。パソコンなどを用いてプロジェクターに映し、大人数でも見れるようにすべきだ。また、OHPを見せるスピードがはやい。板書し終わらないうちにかわってし

まう。学生の反応を見て授業を行なうべきだ。たまに人数が多いとき後ろまでプリントが来ない。大変不満である。

- 36 OHPの書く量が多すぎ、授業展開早すぎ。教師が生徒の反応を見ていない。理解できないうちに先に進む。
- 37 OHPを映している時間が短すぎた。ノートに写すことが精いっぱい説明を聞けなかったりすることがよくあったので、もう少し長くOHPを写すとかプリントを配るか、なんとか対策をとったほうが良いと思う。
- 38 OHPが見にくいのでプリントにして欲しかった。
- 39 OHPの字は小さくて見づらく授業のスピードが速くてノートに書きこめない。これを直さなければ来年の受講者にも同じことを言われるだろう。あと、授業の内容自体が古いように感じる（特にビデオ）。
- 40 板書が殆どなく話のペースが早くてノートをとりにくかった。
- \*41 もう少し黒板にまとめてほしかった。
- 42 もう少し黒板を使ってわかりやすく説明してほしかった。
- 43 板書が見にくい。書いていることに関連性がなくて分からなくなる時があった。
- 44 黒板が見づらい、使い方が悪い、汚く、字が読みにくかった。
- \*45 黒板の板書が非常に汚い。OHPの使い方も非常に不適切。学生に理解させようとも理解してもらおうともしていなかったように見える。つまりノルマを終わらせることだけに執心していたように見えた。板書（OHP）が非常に多いにもかかわらずはしょって書く、いとまも与えてくれない。内容をノートにまとめるのと話を聞くのを両立できない。不満の残る授業でした。
- 46 もっとゆっくり話して。大事な所は板書して。ゆっくりわかりやすく進めてください。お願いします。
- 47 ぶつぶつ喋らない。黒板はノートを取りやすいように書いてください。テスト1日はきついです。
- 48 マイクの雑音がひどかったのでなんとかして欲しい。
- 49 マイクを使用しているにもかかわらず、話し方が不明瞭で聞きとりにくかった。
- 50 マイクの音が小さくて聞こえない時があった。
- 51 210教室はいつもマイクの音質が悪すぎる。早急に改善してほしい。※160教室も然り。
- 52 470教室のマイクは非常にうるさいのでいいかげんなおしてください。
- 53 私語について注意して欲しいと前期のアンケートにも書いたが全く改善されていない。
- \*54 単位をとりやすいという噂が先行してまじめに授業を受けてる人がいない。
- 55 講義の邪魔になる学生は排除すべき。簡単に単位を取らせない工夫が必要。
- 56 私語を行なう学生は退出させるべき。出欠のみのためだけに出席している生徒がいるので出

- 欠は必要ないのではないか？レポートや試験でその効果が出るであろう。
- 57 授業の方針が次々と変わるのは困る。
- \*58 当日いきなりの休講が多い。テスト近くになってレポートの忙しさが増した。
- 59 休講の場合、事前に掲示なり、指示なり、してほしい。
- 60 突然の休講が多く、この講義のためだけに仕事を休んで札幌から来る私にとっては、休講の連絡についてもっと考慮して頂けたらと思いました。
- 61 講義室が狭かった。立ち見になることが何回もあったので、すぐに対応してほしい。
- 62 160番教室寒すぎ。1講目でもちゃんと暖房いれてほしい。
- \*63 「出席率が悪い」と言っていたが、理由は月曜日の1講目だからというだけではないと思う。「教科書を読めば分かると思うが」と言うなら、講義に出る必要はないのではないかと、思ってしまう。
- 64 出席をとって評価して欲しかった点。
- 65 学生同士の意見の交換がもっとあったほうが良かった

#### ○夜間主コース

(良い点)

- 1 非常に生徒の意見に耳を傾けてくれた。
- 2 きりっとした話し方がとても好感を持っています。とても興味深いクラスでした。受講できて良かったです。ありがとうございました。
- 3 とても熱心にクラスをすすめて頂き興味深かった。ありがとうございました。
- 4 ものすごくおもしろい授業でした。高校でもこんな授業だったらよかったですと感じます。
- 5 商学系の勉強がしたくて大学に入ったため、教養科目の学習には苦勞しています。でも、こういう学問があることがわかったのもその意味では勉強になりました。面白かった。
- 6 基本的なこともしっかり教えてくれたことが良かった。
- \*7 ポイントがよくわかる説明だった。
- 8 話も聞きやすかったし、内容もなかなかおもしろかったです。
- 9 とても説明が丁寧で解りやすかったです。
- 10 すごく分かりやすい授業でした。内容が難しくても私達に分かりやすい身近な例題を用いて説明してくださったので、とてもわかりやすかったです。
- 11 とてもためになる講義。実生活に活かせそうです。もっと聞きたかったです。ご苦勞様でした。
- 12 判例や余談などの説明がとても楽しかった。そのおかげで無理なく知識に裏づけができた。声もはっきり聞こえて良かった。
- 13 初めに板書してくれたので、授業に集中できた。

- \*14 プリントが大変充実したものであったと思う。
- 15 会社員として実務と比較ができたりして興味深かった。事例問題形式も良かった。ただ学生は先生の求める答えを必ずしも言えるわけではない。その点をもうすこし考えてほしい。まちがいを指摘するにもそれなりのやり方があると思う。又、このアンケートでどれほど改善されるかは、今までのことを考えてもよくわからない。

(改善を望む点)

- 1 もっと授業の下調べをして興味をもたせてほしかった。
  - 2 学生のやる気をそぐ言動が多かった。
  - 3 教官の態度。すぐキレる。関係ない私まで気分が悪くなる。
  - 4 もう少し身近な例を出して、分かりやすく教えて欲しいです。私が知識少なすぎるのですけど。
  - 5 授業が速すぎるしとばしすぎてよくわからなかった。
  - 6 計算問題の時に教師のペースでどんどん進んでいくのでわかりづらいので改善してほしい。
  - 7 毎回レポート提出があってレポートを書くために勉強しないと書けないような難しいテーマばかりだったのでもっとレポートの規模を小さくしてほしい。
  - 8 OHPがとても見づらく、ノート量が多かったのが大変でした。
  - 9 OHPが手書きなので細部が見えない。明かりを消したまま黒板を使うのは×…。
  - 10 OHPの字が小さすぎて見にくかったのもう少しOHPの字を大きくした方がいいと思う。
  - 11 OHPの内容が変わるのがはやすぎる。ノートに書いていると話が聞けない。
  - 12 OHPの授業でしたが量が多すぎるのでプリントにした方が良かったと思う。
- \*13 黒板をもっとまとめてほしい。
- 14 ノートは自分でとる形にして話をして欲しかったです。黒板に書かれることが多いとそちらに気がいってしまいます。
  - 15 黒板の字が汚いので読めない。話がわかりづらい。授業を時間内に終わる気がさらさらない。
  - 16 もっとクリアな発音で講義して欲しい。アーとかウーとか聴き取りにくい。
  - 17 テスト、レポートが多い。
  - 18 テストなどの模範解答が長すぎる。あれだけの要点について時間内に解答することは困難で、模範解答を基準に採点すると採点は辛くなる。解答の解説としては最高であるが、求める解答の質を下げしてほしい。
  - 19 講義に遅れてきて、終了時間も延びてしまうのだけは辞めて欲しかった。
- \*20 どの教師の方もそうですが、代返に対して甘い。
- 21 先生は授業に対してかなりまじめに取り組んでいたが内容が難しすぎる。知的関心を高める程度で良いと思います。
  - 22 解りやすく説明しようとする熱意が感じられなかった。

## 語 学 科 目

### ○昼間コース

(良い点)

- 1 大変良かった。学生の熱心さに驚いた。こういう授業がたくさんあればいいのに。
- 2 親しみやすい人柄で、常に学生の立場に立ってくれる良い先生でした。
- 3 すごい先生の人柄も良くて、楽しく勉強できた。
- 4 真剣に教えてくれる先生の姿勢が良かった。
- 5 すごく一生懸命教えてくれて、いい先生だと思いました。
- 6 すごく丁寧に教えてくれていて良かった。
- 7 語学の講義は専門の科目とは比べものにならないくらい全体的に親切で分りやすくてよいと思う。わからないところも熱心に教えていただき、大変理解が深まった。
- 8 本当に英語の学ぶためのいいきかいだった。楽しくて勉強になりました。役に立った。
- \*9 今までのこの大学で受けた英語の中で最も充実していました。分かりやすく、ためになり、何よりもおもしろい授業でした。このような授業をもっと増やして欲しいです。
- 10 終始英語しか話さなかったように指導されたのが良かった。
- 11 興味を持たせるように積極的に話しかけていたのは良かったと思う。
- 12 先生の話は、知的関心を高めてくれるもので、貴重で重要な教養として身についた。興味深い話が多かった。定期テストがないのも良い。
- \*13 学生の反応を見ながらの授業で、私はとても楽しかった。相談にのってもらえて嬉しかった。
- 14 T先生は英語だけでなく、人生についてのアドバイスをくれた。時々、ハッとするような言葉があり、すべての面において最高の授業でした。
- 15 先生の授業は英語力を高めるのに役に立ったと思います。興味の幅も広がりました。ありがとうございます。今度オフィスに英語学習についていろいろお聞きしに行きたいので、よろしくをお願いします。
- 16 必ずあてられるという恐怖感があったが、そのおかげで語学の方がある程度身に付きやすかった
- 17 予習が大変だったけど1年間頑張ったので力がついて良かったです。
- 18 宿題とテストで大変だったが為にはなったと思う。
- 19 友人がたくさんできる授業内容でとてもよかったです。
- 20 留学生と接する機会となったのでとても良かったと思います。
- 21 テキストだけで勉強するのではなくビデオを見たり楽しい授業だった。
- 22 テキストの内容が適切でデザインがよかった点も学習する上で良かったと思う。
- 23 テキストの内容だけでなく、知的関心を高めてくれる話をしてくれたので良い勉強になった



と思う。

- 24 興味のもてるテキストの内容だった。
- 25 ヒアリングが主であったが、聞くコツなどを教えてもらい大変役に立った。
- 26 プレゼンテーションはいやだったけど、やって良かった。
- \*27 英語を話す機会を与えてくれたのは本当にプラスだった。もっともっと増やしてみても… speakingだけのクラスをしてもよいと思う。Speechとかもおこなっては…。
- 28 前期でListening重視、後期でReading重視だったので非常にバランスが良かった。
- 29 英語の訳し方を細かく指導してくれたので、より日本語らしく訳せるようになった。
- 30 直訳では無く、内容に合わせて適当な訳をすることに慣れたのでとても良かったです。
- 31 英語もこのようなやり方だと苦手でも興味をもつことができるのでとても良かったです。こういう授業をもっとやってほしいです。
- 32 英語だけでなく日本語も学んだような気がして良かった。教科書の内容が難しかった。
- \*33 英語を学ぶということには、それ以外の知識も必要なのですね。今まで受験英語しか知らなかった私にとって、とても興味深い授業でした。
- 34 身近な話題を取り混ぜながら授業をしてくれたのが良かった。
- 35 生徒に文を作らせる機会が多く、考える力が養われた。
- 36 授業以外の余談もあったが、興味深いものも多く、うけた授業の中で1番おもしろい。正直授業内容は難しくきつかったが、力がついたような実感があった。
- 37 TOEFLのテキストに沿って学習の仕方を丁寧に教えてくれたのでとても良かった、小テストもとても役立った。これからも続けてほしい。
- \*38 アメリカとイギリスの文化、言語の違いなどとても興味深かった。
- 39 言語だけでなく習慣や考えの違いなど経験を話してくれたところが良かった。
- 40 映画をつかった講義形式はとっつきやすく興味を引かれました、2年次も同じ先生の講義を受けたいです。
- 41 英語と比べて2年間という短い期間しかない仏語でしたが、先生の授業のおかげでとても興味を持たし、文法より話法を重視していた点も大変やりやすかったと思います。ありがとうございます。
- 42 先生の仏語の授業が一番好きでした。その場で覚える時間をくれるのでテスト前はとても助かります。又、CMや歌で仏語が流れたり商品などに使われていると教えてくれるので興味が増しました。2年間ありがとうございました。
- 43 「大地の子」を見たのは良かったです。日本と中国の関係を考えさせられました。
- 44 中国の習慣や出来事についてたくさん話をしてくれたのでおもしろかった。授業だけじゃなくて雑談を入れてくれるのであまり疲れなかった。
- 45 中国語と日本語の微妙なずれがもたらした失敗談等がとてもおもしろかったし、中国語の理

解に役立った。

- 46 私は韓国語がこんなに好きになるとは、はじめ思っても見ませんでした。授業は本当にわかりやすいし、よいと思います。あえて言うなら、以前何回かやったように、机をまるくしてやった方が歌いやすいし、会話練習もしやすいと思います。あと個人的にはもっと歌を紹介して欲しいです。

(改善を望む点)

- 1 先生2人の連携がなかった。
- 2 2人の教官（日本人とネイティブ）の連携をきちんととってほしい。
- 3 教科書は買ったからには使用して欲しい。使用しないなら買わせないで欲しい。
- 4 教科書がつまらぬ。
- 5 教科書が難しすぎたのと、説明（訳）がなかったため、非常にわかりにくかった。
- \*6 内容理解するのにつらかった。授業の方針をかえた方がいい。英語の教科書も最悪。あまり、自分のやり方に合わなかったので役立たなかった。
- 7 話の内容があちこちへ移り混乱したのもっと体系的にして欲しい。
- 8 授業が単調過ぎて飽きてしまった。興味を持たせる工夫をして欲しい。
- 9 授業が予習の答え合せをするだけで単調すぎる。また発言者に得点を与えるということもやめてほしい。内気な生徒にはつらいと思う。
- 10 説明を英語で言われてもわからないので、説明は日本語でしてほしい。
- 11 説明だけして、黒板に書かないこともあったので、なるべく黒板に残すようにしてほしい。  
授業での説明などはまずまずおもしろかった。
- 12 授業のペースが速く、理解する前に進んでしまったのもうちょっと詳しく、ゆっくり進めてほしいところです。
- 13 授業内容が濃くてうけていて楽しかったが、テキストが難解なため苦勞した。せめて構文が本文のないよう、どちらか簡単にして欲しい。
- \*14 一回に予習をする量が多すぎて、他の講義は予習に支障をきたすことがあった。また、教師が自分のペースで進めていたため、クラスの大部分が理解できていなくても進んでしまい混乱した。そして、予習でわからないところでも「なぜわからない？」など叱責され、非常に困惑した。
- 15 もっと実用的な会話を教えて欲しい。自分達で話すだけでは、のびないと思う。
- 16 「読む書く」より「聴く話す」に力を入れているのはこれからの時代必要かも知れないが、度が過ぎる。
- 17 後期になってシラバスの内容と違う授業になったので残念だった。

- 18 シラバス内容と授業内容を途中で変えないでほしい。
- 19 始め出席を評価プラスにすると書いていたのに、欠席をマイナスすると変更したのは納得できない。

#### ○夜間主コース

##### (良い点)

- 1 生徒に気を使って授業を進めているところが良かった。
- 2 先生ご自身、毎回一生懸命私達の知的興味へとつなげようと講義をがんばってくださったことを、感謝しております。ありがとうございました。
- 3 珍しく自主的に積極的な態度で行える授業でおもしろかった。いい経験になったと思います。
- 4 非常に授業の進め方が良かった。英語に興味をわいてくる授業だった。
- \*5 その気になれば一人でも学習できそう。教師がすることは、教科書以外の+ $\alpha$ だと思う。
- 6 今までのような、単に訳だけをする授業と違い好感の持てる授業だった。
- 7 授業が面白かった。いろいろな角度から問題を提供してくれた。
- 8 新しいやり方を大いに取り入れていて、大変良かった。
- 9 このような会話重視の授業を主体とした内容は、会話力、ヒアリング力の向上に即つながるため、とても勉強になりました。(文法的な授業よりとても興味をもてました)。
- 10 このような感じの授業があっても良いと思う。特に新聞などの新しい情報を取り入れているのは良かった。

##### (改善を望む点)

- 1 もっと大きな声でゆっくりと話して欲しい、授業の進み具合もゆっくりして欲しい。学生とのコミュニケーションをとってほしい。
- 2 記事は最近のニュース、話題から選んだほうが良いと思います。日本にも伝えられているニュースが英語でどう表現されているかに興味があります。
- 3 一回の講義で使用するプリントの分量を少なめにして、その分、ないようを詳しく言うのはいかがですか？新聞を使うなら大事な文章のみピックアップすると良いと思います。
- 4 テキストが最悪、TOEFLなんかのを使ってほしい。

#### 実 技 科 目

#### ○昼間コース

##### (良い点)

- 1 軽スポーツをとってよかったです。楽しかったです。

(改善を望む点)

- 1 カリキュラムの変更が多い。
- 2 レクリエーションをもっと増やした方がいいと思います。1年生のときはなかったの。
- 3 試合時間が短い、練習にもっとミニゲームをいれた方がよい。
- 4 人数が多いために第1希望どおりの種目に行けなく、全体的に楽しくなかった。
- 5 体操する時間が長すぎる。あと内容にサッカー入れて。
- 6 履習者が多く、シラバス通りに行かなかったことに非常に不満だった。

## 8 講義科目の総合評価（総平均値）

これまで、学生アンケートの調査結果を講義の選択理由、学生の学習態度、講義の満足度、講義の内容および講義の方法について、詳細に検討してきた。ところが、これらを総合して全体ではどのようなになっているかをみる必要がある。総合評価をする場合、指標に何をを用いるかについては、意見のわかれるところである。しかし、ここではとりあえず図表3-8のように、総合指標として満足度、興味深さ、新しい研究動向の取入れおよび学生の反応に注意を因子とした総平均値を測定尺度として、比較分析をしてみたい。

ここで注意しておきたいことは、アンケートは「1」が強い肯定、「5」が強い否定を示しているの、小さいほうが良いことになる。しかし、それでは一般常識と異なり理解しづらいので、ここでは「5」が強い肯定、「1」が強い否定を示すように数値を変換している。また各因子の数値は学科等別の平均値をとっている。

さて、図表3-8は、講義科目の総合評価を示したものである。この図表で、総平均値をもとに昼間コースと夜間主コースの学科等別の順位を前年と比較しながら見てみよう。昼間コースでは、1位 企業法学科（本年3.74、前年3.70）、商学科（3.74、3.65）、3位 一般教育（3.55、3.43）、4位 社会情報学科（3.32、3.40）である。つまり、総合評価の前年との比較においては、その順位はほぼ同じである。また、商学科と一般教育は0.1ほど高くなっているのに対して、社会情報学科は0.1ほど低くなっている。他方、夜間主コースについても同じ方法で比較してみると、1位 商学科（本年3.71、前年3.65）、2位 企業法学科（3.69、3.53）、3位 一般教育（3.43、3.63）、4位 社会情報学科（3.38、3.38）である。つまり、企業法学科は0.1ほど高くなっているのに対して、一般教育は0.2ほど低くなっている。その結果、一般教育は前年の1位から3位に後退し、それ以外の順位は同じである。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義科目の総合評価における昼間コースと夜間主コースの学科等別の順位は全く同じである。すなわち、商学科（昼間3.74、夜間主3.71）、企業法学科（3.74、3.69）、一般教育（3.55、3.43）、社会情報学科（3.32、3.38）である。このような結果は、これまでの分析結果とほぼ一致するところであろう。そして、かかる事実を率直にうけとめ、評価の悪い学科は授業改善により一層の努力が要望されるところである。

## 9 学年・講義の選択理由と満足度の関係

### 9-1 学年と満足度の関係

図表3-9-1は、講義科目・語学科目における学年と満足度の関係を示したものである。この図表で、講義科目において講義に「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて比較すると、1年（満足48%、不満17%）、2年（55%、13%）、3年（63%、10%）、4年（69%、8%）である。つまり、講義の満足度は、学年が進むにつれて高くなっている。また、講義に「満足できた」を学年別に前年と比較すると、1年（本年48%、前年44%）、2年（55%、54%）、3年（63%、53%）、4年（69%、60%）であり、すべて前年より高く、3年では10ポイントも高くなっている。また、1年の満足度は40%台と非常に低くなっているが、これは、受験競争からの解放感と大学で何を勉強し、大学生活をどのように過したらよいかという目標を持っていないことによるものであろう。

他方、語学科目についても同じように、講義に「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて比較すると、1年（満足57%、不満12%）、2年（59%、9%）、3年（59%、12%）である。つまり、満足度は、学年が進んでもほぼ同じである。また、「満足できた」を学年別に前年と比較すると、1年（本年57%、前年60%）、2年（59%、59%）、3年（59%、66%）である。つまり、満足度は3年で少し低下しているが、1年と2年はほぼ同じである。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、学年と講義の満足度の関係は、講義科目では学年が進むにつれて満足度が48%から63%まで高くなっているのに対して、語学科目では学年が進んでも満足度が50%台でほぼ一定である。

### 9-2 講義の選択理由と満足度の関係

図表3-9-2は、講義科目・語学科目における選択理由と満足度の関係を示したものである。この図表で、講義科目において講義の選択理由で「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて比較すると、「必修科目」（満足59%、不満13%）、「専門の勉強」（66%、10%）、「シラバスを読み興味」（62%、9%）、そして「時間割の関係」（30%、24%）である。また、「満足できた」の割合の高い順に前年と比較しながら並べてみよう。「専門の勉強」（本年66%、前年60%）、「シラバスを読み興味」（62%、56%）、「必修科目」（59%、51%）そして「時間割の関係」（30%、28%）である。つまり、選択理由における満足度の高い順に並べてみると、その順位は前年と全く同じである。また、満足度は全体的に高くなっているが、しかし、「時間割の関係」は30%位で非常に低いことがわかる。さらに、「必修科目」は、一般に満足度が低いと予想していたが前年より8ポイント高くなって59%である。そこで、「必修科目」は満足度が低いという定説を改め、明確な教育目標を設定して独創的なカリキュラムを作ることが望ましいかもしれない。

他方、語学科目についても講義の選択理由で「満足できた」「不満であった」の2区分にわけて比較すると、「必修科目」（満足57%、不満11%）、「専門の勉強」（76%、2%）、「シラバスを読み興味」（74%、4%）そして「時間割の関係」（46%、26%）である。また、「満足できた」の割合の高い順

に前年と比較しながら並べてみよう。「専門の勉強」（本年76%、前年65%）、「シラバスを読み興味」（74%、73%）、「必修科目」（57%、58%）、「時間割の関係」（46%、59%）である。つまり、選択理由における満足度の高い順に並べてみると、その順位は前年とほとんど同じである。さらに、「専門の勉強」と「シラバスを読み興味」は70%台で比較的高いのに対して、「時間割の関係」は40%台で非常に低くなっている。「必修科目」を選択した者は、全体の85%（前年84%）であり、満足度は57-8%でほぼ同じである。

以上の結果を要約すると、次のようになる。つまり、講義の選択理由で満足度の高い順に並べてみると、講義科目と語学科目ではその順位は全く同じである。すなわち、「専門の勉強」（講義66%、語学76%）、「シラバスを読み興味」（62%、74%）、「必修科目」（59%、57%）、「時間割の関係」（30%、46%）である。満足度は、「必修科目」では両科目とも50%台でほぼ同じであるが、他の選択理由では語学科目の方が10ポイントほど高くなっている。

### 9-3 授業に関する各質問項目と満足度の相関関係

図表3-9-3は、講義科目における授業に関する各質問項目と満足度の相関関係を示したものである。この図表で、授業の満足度と強い相関関係（相関係数：0.4以上）を示している項目を前年と比較しながら並べてみよう。つまり、1位「講義内容の興味深さ」（本年0.64、前年0.67）、2位「教師の話し方」（0.53、0.49）、3位「学生の学習態度」（0.47、0.49）、4位「新しい研究動向の取入れ」（0.46、0.38）、5位「講義内容の体系性」（0.43、0.44）、6位「黒板等の使い方」（0.42、0.39）、7位「学生の反応をみながら講義」（0.41、0.32）、8位「テキスト等の使い方」（0.41、0.37）である。

ここで注目すべきことは、出席率（本年0.15、前年0.21）と満足度はそれほど関係ないことである。この点については、前年の分析において高出席率学生（出席率80%以上）と低出席率学生（出席率30%以下）にわけて先ほどと同じ方法で相関分析したところ、高出席率学生（0.092）に対して、低出席率学生（0.136）である。この結果をみると、出席率と満足度はそれほど関係ないことが明らかとなったのである。